

それは讀方ならば讀方、綴方ならば綴方のすぢ道をつたつて一步一步に自分の知識をみがいて行く仕事の仕方、學習の仕方の上から言つて大切な方法であります。ところがそれとは異つて「蟬」とか「鶏」とか言ふ一つの事柄について綴方もすれば、算術もする、歌も作る、えもかくと言ふ風に、各科をまるめて學習する仕方も面白い事です。私はこの方法で少しお話しいたしませう。

この頃は窓の下にも、庭のすみにも蟻がセツセと働いてゐますが、皆さんはあれを見るときつと何かを考へさせられるでせう。

あの小さい蟲が大きなバツタのしかばねにすがりついて、エンヤラホとそれを我が家に運んで行く。かわいらしさ面白さジツト見届けてごらん。

まず一匹の蟻でよく角をチラチラ振廻しながら何かおいしさうなものがなにかしらと探し歩くでせう、何かないかしらん——ホーラあつたぞあつたぞ……。

それでも注意深く見つけたえ物の上へのつかかたり、下にもぐり込んだり前の方に廻つたり、後の方に行つたり、最も念入りに調べるでせう。いよいよこ

れがお甘しい物に異ひないと見定めがつくと、わき目もふらず一生懸命ですにかえつて行きます。すの中にはいつてしばらくすると、これはこれは大勢の仲間を引き連れて大の元氣で繰出してきたではありませんか。

其の働きぶりをジツト見てゐると、誰にもあの小さい蟲が可愛くて可愛くてたまらない様に思はれてくるでせう。ゑの好きな子供はすぐえがいて見たいなあとおもうでせう。歌のすきな子供ならば何か歌つて見たくなるでせう。一體あの蟲はどんなちえを持つてゐるのだろうか。一番調べて見てやろうと彼等のする仕事の一々を念入りに見届ける子供もあるでせう。

けんび鏡でのぞいて見ると其の脊中にある小さいしわまで見極めることが出来ます。細かい二本の後脚に全身の力を入れて引張つて行く協力一致な美くしい彼等の生活。オヤ翅の出来てゐるのもある、まあこんな澤山な蟻。土の中には立派な御殿があるのだろうか。大將はどんな蟻だろうか。

かうして考へて見ると、蟻の生活の中には理科の様な調べ方をしなければならぬ事がたく山にあると同時に國語科としてあぢわつて見たい事がたくさん

あるのに気がつくでせう。

學校で蟻のことを調べるのは大抵理科の仕事となつてゐますが、只理科だけで蟻の生活を調べただけで捨て、終ふにはあまりに惜し過ぎる程彼等にはうたつて見たい、つづつて見たい、讀んで見たい、たく山の事柄をもつてゐるのであります。もし皆さんがそれ等を見逃して終ふ様なことがあつたら誠に惜しいことだとおもひます。

理科で調べると一緒にまず一枚の畫用紙にセツセと働く蟻行列をゑにかいて見たらどうでせう。

用紙の一部分に歌を書き込んで見たらどうでせう。

先立つ黒蟻

親蟻お供

木の葉をくぐつて

石山こえて

ふもとの村に

お米を買ひに

お米が重い

加勢を呼ぼか

車を貸そか

夕立の晴れ間

セツセとはこべ

それ、一層蟻が可愛くなつたでせう。お母様にいただいたお菓子も分けてやりたくなるでせう。

やつたお菓子をみんな總がかりで、懸命に集に引張り込む。あの仲の善さを御覽。前の者は引く、後の者は押す。これを修身の上から考へてごらん。

それ。あんな小さな虫だけれど、それが尊い偉い者に見え出すでせう。

皆さんは何事を調べるにも、只一通り調べた丈では本當のことが解るものはありません。私共人間同志にして見てもさうです。只一方ばかりから見てもあの人には悪い人だ、恐い人だなどと思つてもそれは間違つてゐる事が澤山あ

ります。眞向から見ると、裏手から見ると、その人の豪さがすつかりかわることがあります。にも係はらず只一方から自分の都合のよい事ばかり、見易いことばかりを見て、他の方を見ないといふ事は、誠に自分勝手なことではありません。私共は本當にその物を知りわけると、その勝手を取り去らねばなりません。そして優しい心持でその全體を見届けようと務めなければなりません。

門に立つ乞食。だれの目にもそれは穢いものです。しかしよく見届け聞届けて見るとその穢い乞食にも、歌になる材料も、綴方になる材料も持つてゐるのであります。勿論修身の上から考へて見なければならぬ問題は澤山あります。

子供を連れてた乞食に歳を聞いた。母は三十五で子供は五つだといつた。子供が二十歳になると母はその何倍になるか。

と算術の問題を作つて見ると、何だかその乞食の行先が明るいやうに思はれて来るでせう。

皆様も知つてゐる通り、近頃の人は誰でも、デモクラシイといふ言葉を使ひますね。そしてそれはどんな人にも平等にとりもちすることだと知つてゐるでせう。だけどそれは只修身の上で、理屈の上で習つた所で中々出来るものはありません。眞黒けになつて働いてゐる鍛冶屋の小僧さん。その小僧さんの働きを見届けてごらん下さい。修身の上からばかりでない。それが算術にも綴方にも、歌にもなる立派な材料なのです。親しむとか同情するとか言ふことは、かうして靜かに相手を見届けてからではなくては起る心ではありません。前から言つた様に、確にもものを知りわけると、それをいろいろな方面から調べて見るといふことは肝心なことですが、尙外に、私共が立派な人間になるためにもそれは大切なことなであります。

皆さん。世の中には不自由な人間もをりますけれど、算術ばかりよく出来て繪がさつぱりかけなかつたり、理科のことはくはしいが美しい文が作れなかつたり、歌つて見たい時に歌へない様な人間ほど、不自由なかなしい人間はないでせうね。

人には生れつき上手といふことがありまして、一人の人が繪かきにもなり、學者にもなり、歌よみにもなれるかと言つてもさうは行きません。生れつき繪の下手なものはどんなに稽古しても一流の繪かきにはなれません。けれども一通りは誰にでも出来るだけの芽を誰でも持つてゐるのです。

私共はその芽を枯してしまふと、折角伸びる者も伸びずに終ふのであります。芽を枯すと言ふのは、誰も外の人が悪いではなくて、みんな自分が悪いのです。緩つても見られる、手工でもして見られる。歌でもよまれる。算術でも考へられる。重寶な物に接してゐるながら、只緩つて見ただけで、外の事をほつて終ふと、緩方の芽だけは伸びるけれども、算術の芽は枯れることになるのです。

學校でお稽古する時は、讀本も讀まねばならない。算術も考へねばならないから、ナカナカ忙しくて、唱歌や圖畫はあまりしてゐる暇がありません。其上たまたま一週間に二時間か一時間ある大事な唱歌や圖畫の時間を、うかうかして過して終ふと、折角の私の芽がすっかり枯れてしまつて、私はかたわな人間となつてしまはねばなりません。皆さんは算術や讀本で習ふ事柄を他の方面すな

はち唱歌や圖畫から考へてごらん。面白さは刻々まします。

総合的——一科合科的の學習のためにもと思つて……………。

三 参考書の指導

参考書を使用せよとはいふが、その使用法を指導しないのは片手落である。のみならず、兒童の學習をしていよいよ煩にたえざらしむることになるものである。

参考書は學習に對して必要かくべからざるものであることは今更言ふまでもない。兒童にはその妙味がわからないで容易に使用しようとしなないものがある（特に中途から學習法をはじめた學級に多い）使用しても、その参考書にあるがまゝを自分のノートにうつしとるに止めるものがある。まづ参考書について調べて來るやうに指導することが何より第一であり、次にはその使用法を會得させることが必要である。

第一のためには参考書を参考した児童には話させたり、教師のつかつた参考書を提供したりして、参考書に憧憬をもたせること、それと時々参考書の蒐集方の競争……といへばおかしいが「どの位、この材料に参考されるものがあるか、各人で集めて見ようではないか」といつて集めさせる。次のは「航海の話」を學習する際に一児童があつめて、読んで、参考にしたものである。

○航海の話の参考書 (一兒分)

子供の科學……二月號……潜水艦のこと

同 ……七月號……世界海洋の深淺圖

同 ……六月號……海の深さと魚類

同 ……六月號……犬吠岬燈臺

同 ……六月號……燈臺は船の慈母

同 ……六月號……あゝ南極探検家

同 ……六月號……南極の大惨事

同 ……六月號……太陽系

概要地理學の通論……

……太陽系

海水の運動
空氣中の水分

子どもの科學……三月號……命をまとにくじら捕

同 ……十二月號……きりとつゆとしも

同 ……一月號……軍艦の構造
海にうかべる其の城

讀本十一卷……我は海の子

國語讀本教授書……四年用……航海の話

兒童の地文學……方位の呼び方と測方

兒童の天文學……星空

偉人の幼年時代……(三)……ネルソン

文學副讀本……航海、初航海

小學童話讀本……船と水先案内

尋常小學讀本……造船の話

國語讀本卷九……………星の話
天氣豫報及び暴風雨警報
兒童の電氣學……………探照燈の壯觀
えはがき……………ハルビン丸
嘉 義 丸
紫 丸
ほうらい丸
あらばな丸

私の尋四兒童は参考書を欲求し参考書を読むことに於ては遺憾はいなが、その使用法に至つては指導を要することが多々あつた。それで、私は特別に時間を割いてこれが指導をしたものである。今、私が尋四の兒童に指導したところをひろつて見ると

1 學習材料にわからないところ、どんなに考へても、讀みかへてもわからないところ、それからどうしてもこれを知らなければ満足が出来ないといふところを

はつきりとりへて参考書を読め。すなはち目的をはつきりして讀め。

揚子江ハ水量ツネニ豊ニシテ、洋々ト流ルレドモ夏季ハコトニ増水シテ、濁流江ニミナギリ、河口ヨリ海上百里ノ間、海水コレガタメニ赤シトイフ。揚子江ノ大ナルコトコレニテモ知ルベシ。

に於て「なぜ夏季はことに増水するのか」といふことをはつきりとりへて、それを知るために参考書をあさるといふやうなことである。

2 参考書を見てノートに丸寫するのではない。要點、要領を讀みとることにつとめよ。すなはち必要な點だけをノートせよ。

でなければ發表するとき、ノート讀むやうなまづいことになる。それで、参考書にあることは「表」にしても「要項」にしても「圖」にしても「繪」にしてもよい。

3 同じ材料の學習に他人はどんなことをしてをるか、それを参考にするため、に参考書をあされ。

参考書は單に解疑用としてのみ必要があるのでなく、創造欲、生長欲を刺戟

するためにも必要である。

これ以外に参考書使用上指導すべきことは多いが（拙著生活創造の讀方學習要領参照を乞ふ）尋四の程度としてはこれ位のところを十分徹底さすればよいと思つて、あるひは謄寫印刷物によつて練習せしめたり、あるひは説話によつて指導したりしたものである。

四 ノートの指導

學習ノートは前項の参考書の使用法及び學習の方法と至大の關係がある。兒童の學習方法さへ進めば、したがつてノートの使用法も進歩する。私どもはたとひ低學年であらうと、高學年であらうと、兒童の學習の仕方を指導する以上、このノートの指導もやつて来たのであるが、特に尋四になつて、これを言はなければならぬのは、尋四が特に學習方法の指導を必要とする一轉機にあるからである。教師は一方に特設し、あるひは機會に應じて學習方法を指導すると共に一方にこの

ノートによつて學習の仕方を指導する、いはゆる寄手搦手の両面から學習の仕方を指導しなければならぬ。

その指導の要點はいろいろあるであらうが、尋四では特に

正確なる記載

整美なる記載

各個人獨特の創作的なもの

各科各材料によつて異なるべきもの

等、即ち正整と独自の個性とを發揮するやうに指導することを第一としなければならぬ。

第十章 一科合科の學習

一 生長の自然過程としての一科合科

綜合學習——合科學習——が進化して、四分科學習すなはち中合科となり、それが進化して分科學習となる。尋四はこの四分科學習から分科學習へかけての學習をなすのである。

こゝにいふ一科合科とは一分科を多方面に取扱ふ學習である。合科學習から進化して來た兒童が辿る當然の過程に外ならぬ。しかし、その材料の眞を闡明し、その分科の獨自性を發揮し、その材料及その分科を自己の生活とびつたりさせるために生活が自然に要求する方便としての多方的取扱ひであつて、けつして、すべての分科を同時にその材料に集中するものではない。その科の獨自性を闡明す

るために必要なものだけを方便としてとるのである。卷六の國語讀本の「日本の高山」を學習するに際して、富士山の高さの一萬二千五百尺を、これまでに長さは米法だけしか學習して來てゐない兒童が、これを米に換算することは、富士山の高さを自己の生活にくつつける上から必要な方便である。又新高山の高さと比較するのもよい。しかし、「一邊が一萬二千五百尺、他の一邊が一萬二千尺の矩形の地の面積は幾アールあるか」などする兒がゐたら、それは一科合科のためにとらはれたやり方である。合科學習は、どこまでも自己の要求を解決するため、方便として必要な分科を使用する。一科合科に於ても精神はこれと全く同じである。

二 一科に統制される各分科

國語讀本卷八「揚子江」を學習した一兒童のノートの一部分に次のやうなことが書いてある。

二 一科に統制される各分科

○我が國の最南端より最北端までの長さ

最南端……………臺灣の七星岩

最北端……………占守島(シユムシユ)

長さ……………一千二百里(揚子江は百里長い)

○鴨綠江

朝鮮と支那の境にある。源は白頭山で、西朝鮮灣に流れこむ。

長さ……………百八十里

○揚子江は世界で第何番の長さか

第一 ミシシッピ……………(アメリカ)……………メキシコ灣……………四二二一哩

第二 アマゾン……………(南アメリカ)……………大西洋……………三八〇〇哩

第三 ナイル……………(アフリカ)……………地中海……………三七六六哩

第四 揚子江……………(支那)……………東支那海……………三二〇〇哩

○船のさかのほる距離

上海……………河口より四十五哩、支流黄浦江をさかのほること十三哩のところ

にある。

東洋第一の貿易場で二萬噸以上もある船が往復してゐる。だから本流の

大きいことがわかる。人口およそ七十萬。

漢江……………河口から六百三十哩、人口は八十萬。

宜昌……………河口から一千哩。

叙州……………河口から一千八百哩、こゝまで汽船が通ふ。

重慶……………宜昌から三百七十哩、特別の構造の汽船が通ふ。日本軍艦伏見が

明治四十四年にさかのほつたことがある。

小舟はまだそれから上にさかのほる。

○揚子江の筏

長さ六七十間、幅三四十間、吃水が十五尺もある。上にアンペラ葺の家が二十軒も建ちならんで、野菜も作れば豚や鶏や家鴨などもかつてゐる。前後にこんな筏が三個も連結されてゐるからちようど河の中に村落があるやうに見える。この大きな筏が揚子江の水の流の力をかりて、水のまにまに下る。も

し、淺瀬や岸をさげようとする時には小舟をやつて竹製の大風のやうなものを水の中に投入れる。すると大風が垂直に半分水面に出る。そして筏の方から轆轤で綱を巻くと筏も風の方へ、帆も筏の方へよつて行く。さうして、淺瀬や岸を離れる。

家鴨は一時に數千も孵化させて、これを水に浮べて飼ふ。筏が下るにつれて家鴨は大きくなる。夜は家鴨の周圍に綱をめぐらして寝る。筏を下しはじめてから下流の目的地につくまでに一年もかゝるから、家鴨もりつばに成長してしまふ。それを筏とともに賣拂ふ。筏一つで十萬圓もするから往には筏の船頭であつたのが、かへりは立派なお客さんになつて、一家族つれだつてかへることもあるといふことである。

○水量の豊かなわけ

流域の面積が十一萬方里我が國の二倍半もある。そして千三百里も山奥の西藏から流れて来て、その上、大きな支流がたくさん流れこんでゐるからである。

○夏季はことに増水するわけ

夏は増水して吃水二十六尺で一萬噸以上の船が航行するが、冬になると吃水十尺の汽船も漢口までさかのほりかねるほどである。

冬は水源地方が氷結するのと雨がよくないから減水するが、夏はその氷が解けて、その上、大雨が長い間降る。そして兩岸も河底も岩石ばかりで水を吸収しないから増水するのである。

それで夏と冬の水の嵩の差は百八尺にもなるといふことである。だから宜昌あたりから上流になると、家は冬季の水面よりも百五十尺から二百尺も高いところに建ててあるといふことである。

○揚子江の流域

面積十一萬方里もある。我が國の二倍半

○漢冶萍

揚子江と漢江と會合してゐるところに漢陽と武昌と漢口といふ三大都市がある。その中でも漢陽は名高い工業地で人口約四十萬、製鐵所、兵器製造所が

ある。

この製鐵所につかふ鐵礦は大冶から来る。大冶は鐵礦が無盡蔵といはれるところで百平方里皆鐵礦で三四百尺もある山が全部鐵礦で地面にあらはれ出てる。これを露天堀にして漢陽に送る。今から三十七年前支那の張之洞といふ人が漢陽へ製鐵所を置く爲に獨逸人をやつて調査させて發見したといふことである。支那はこんな大切な山を一時は外國に賣らうとしたこともあつたが、今は支那人がもつてゐる。日本は朝鮮と釜石に鐵礦が出るくらいで足りないから、明治三十年に伊藤博文が支那と約束して支那に三百万兩を貸し、大冶の鐵礦を我が國の石炭コークスと交換することにした。それから年々一等鐵礦十二萬噸、二等鐵礦二萬噸を輸入するやうになつた。又製鐵には石炭が入用だが、この石炭は萍郷といふところから出る。この漢陽と大冶と萍郷は三市で一つの製鐵といふことをするからこれを漢冶萍といつて名高いところになつてゐる。

○計算

鴨綠江は揚子江の何割何分か

揚子江は鴨綠江の何倍の長さか

鴨綠江は揚子江よりいくら短いか

揚子江の流域の面積は百七十七萬五千平方糎とあります。もし、揚子江流域が眞四角だつたら一邊は何糎になるか。もし、揚子江流域

揚子江の流域の面積を方哩で出したらいくらあるか

揚子江は一千三百里、何キロ米になるか

アジャ洲の面積は四四三〇九八〇〇平方糎である。支那の面積はその二割五分、支那の面積は何アールか

海上百里は面積にして何平方里か

等（地圖や圖表や、計算等すべて略）この兒はいろいろの方面から揚子江を調べてゐるが、要するに「揚子江の大」といふことに集中されてゐる。その「大」といふことをいよいよ闡明するために、他のものを讀み、地理に行き、歴史（多少）にふれ、算術を利用してゐる。

かうして一科合科は各分科を互に融合、連絡あらしめて、各分科を互に統制するものである。讀方は他の各分科を、算術も他の各分科を、其の他すべての學科が他の各分科をかうして融合せしめ、統制するのである。かの各分科が肩をそびやかして境界を嚴にし、互に他から侵されまい、他をも侵すまいとしてゐた從來の分科、單獨主義のやり方とは全然趣を異にするのである。しかも、小學校全教科を一體とすることをこれまで企てられながらも、あへてなし得なかつたことを、この一科合科はなし得るのである。けだし、兒童の自然の生長、それを善導助成するの教育が當然、こゝに來るので、不思議でもなんでもない。（一科合科のことは尋五學級經營中に委しく出して居る。）

第十一章 尋四の環境整理

一 分科學習時代に於ける環境整理の精神

尋四は時間割をおうて分科を學習することのはじまつた學年である。兒童たちは、はじめ、分科といふものを單獨に學習することになつたのである。

「遊びの時代」及び「遊びより仕事へ」の時代は兒童たちは

環境に自己が働きかけ、あるひは、環境に誘引されて要求を起し、あるひは學習氣分を起した。そして、その要求を解決するために分科を學習した。

ものであつた。（むろん、環境によつて起つた要求を解決するためにも環境は利用される）ところが

要求を起させるために、學習氣分を起させるのではなくて、分科を學習するため

の環境整理、分科を學習するための補助機關としての環境整理が行はれる。これが従来、兒童が分科學習に入つての教師の環境整理であつた。いふまでもなく、これは精神として、あやまられた環境整理である。これでは、いよいよ分科單獨孤立主義に陥つて行かざるばかりで、生活を擴充し、學習を發展せしむることはならない。

分科學習に於ける環境整理は、やはり、「遊び」の生活や、「遊びから仕事へ」の生活の時と同じく、環境のために各分科が意味づけられ、必要視されるにいたるためのものでなくてはならぬ。例へば、こゝに、海軍マーチの蓄音機のレコードがあるとする。これは、何等他の分科との交渉を有たないかのやうに見える。實際また有たないのである。ところが、兒童たちは、つねに、これを蓄音機にかけて聴く。たゞ、ついにはその音楽の妙味にふれて、かの勇壯な、そして、嚴肅な、なんとも言へないものにふれて、海上怒濤を蹴つて進み行く軍艦を想ひ、そこに活動してゐる海軍將卒の生活を想ひ、つひには、さうした文章を読みたくなり、さうした創作品に接して見たくなる。そして、一たん、さうした文章を読むに及んでは、たゞ、單に、音楽に

接しないものが讀むのと情趣を異にするものがある、といふが如きものである。かうして、環境そのもの、ために分科が要求され、一たび、學習しはじめた分科がそのために、その深みを増すといふに至ること、これが分科學習時代に入つての環境整理の精神でなくてはならぬ。

尋四は、はじめて分科學習に入るの時である。したがつて、その環境整理にも、この心がなくてはならぬ。むしろ、分科學習そのもの、ための補助としての環境も必要ではあるが、それは第二次的のもので、環境↓要求(氣分)↓分科↓その補助としての環境であるべきである。

二 尋四環境整理の要點

尋四環境整理の要點の一は前項に於て述べた通りである。しかし、これは尋四がはじめて分科學習に入るの時であるから特に、この學年に於て言つたままで、分科學習時代の環境整理の一般的精神である。尋四特有のものではない。

むろん、こゝにいふところのものも、この精神から出たものではあるが、尋四兒は習慣構成期にある。うつかりすると怠惰に流れ、いはゆる他の誘惑に陥り易い時である。だからさきにも言つたやうに、眞なること善なること美なることに興味をもつやうにして、これを轉換させなければならぬ。かれらが勤勉であるやうに、研究に勇敢であるやうになさしめなければならぬ。かうして、かれらをして、その危機（さきに言つた）から救はなければならぬ。そして、いはゆる「仕事」そのものを浸々たる興味を以てむかへるやうにしなければならぬ。これが、尋四の環境整理の上に特に考慮すべき要點である。

三 環境整理に於ける物と氣

いふまでもなく、環境を整理するといふことは、教室に物品を備へつけたり、郷土のいろいろのものを見せたりするだけのことではない。むしろ、それらは環境整理の末節に過ぎないものである。悪友に誘惑される、これを轉換させようとして

物の環境を整理する、むろん、しないよりはましであるが、それよりも、かれらの氣をかへることが早道であるやうに、環境整理の本幹は、「氣」をつくること、「氣」を學級にみなぎらすことにある。かの學習方法の指導の章で例にあけた私の「よみきかせ」などはそれがためである。こゝに於いて、他の方面からいふと環境には個人環境と學級環境とある。個人環境を十分發揮せしめ、整理しなければならぬと、尋五學級経営中に言つた私の精神はこれと同じである。（委しくは尋五學級経営中に）

四 尋四の學習設備

學習の仕方	塚本清著
學習の仕方、私の家	池田小菊著
同 大勢の力	同
同 發表會	同

第十一章 尋四の環境整理

毎日年鑑

朝日年鑑

旅行案内

大日本全圖 (教室用)

世界全圖 (教室用)

尋常小學地理附圖

高等小學地理附圖

歴史附圖

地球儀

伸びて行く (雜誌)

小塗板二十枚

教育畫報

オルガン (大)

著音機

毎日新聞社著

朝日新聞社著

鐵道省編

集書館編

同 部 省著

文 部 省著

同 部 省著

大 各 種

奈良女高師學習研究會

同 文 館 發行

同 文 館 發行

古今の偉人傳 (の類)

偉人の幼年時代 (の類)

カ シ ナ (手工用)

ノ コ ギ リ

(十五挺)

(十挺)

第十二章 尋四の學習進度

學習の進度には個人の自由進度と學級の責任進度とがあることはいふまでもない。個人進度は個人々々の必要を出発點とし、能力に應じて、自己の満足を終點として進むもので、兒童の能力に差異のある限り、その横に於て、その縦に於て、その深さに於て、個人々々に異なるものである。學級進度は各兒の自由進度がいかに異つてゐても、全兒一齊の進度で進むものである。

「遊び」の時代に於ても、むしろ、この個人、學級の二つの進度はとらはれてゐたもので、個人々々に學習をするときは個人進度です、み、學級學習をなすときは、學級進度で進んだものである。分科學習になつても、この二つの進度で學習が進められることは同じである。

たゞ、しかし、其の異るところは、その個人進度が「遊び」の時代には、五十人の兒童が横隊をつくつて幅廣くランニングをするのに、「分科學習」の時代に入つて

は五十人が一列縦隊になつて幅狭く、そして、縦長くランニングをすると同じである。しかして、學級進度に於ては前者が一齊に同一の焦點にむかつて學習するのではなく、主として互の學習方面、學習進度を照會し合つて生活の擴張をするといふことにあつたが、後者は學級全兒が一齊に同一の焦點にむかつて互の研究し、學習したところを以て、互に心眼を開いて行くことにある。そして、前者は學級進度といつても、個人進度の進み、あるひは後れてゐるものが、そこに出されて、統一されることがないのに、後者は、進んでゐるものは後へ戻り、後れてゐるものは追ひついて、同一材料——學級進度——に集中され、統制される。だから、學級進度に、後れてゐるもの、それに、追及ぶべく力の弱いものに對しては、教師は、特別の指導を以て、それを引上げ、とにかく、學級進度についての學級學習に参加出来るだけにはなさなければならぬのである。（なほ委しくは尋五學級經營中に）

第十三章 尋四の自治組織

一 尋四自治心

遊びから仕事といふ風に自然の経路を踏んで生長發展して來た兒童たちは、自己の仕事に對して全我的になるものである。自己の仕事に執着し、自己の仕事に一心になると、勢、他人の妨害は邪魔になるが、自分が他人の邪魔をしてゐるといふことには割合平氣である。平氣であるのではない、無意識であるのである。そこで、自分のことは棚にあけて、他人が自己の妨げをなすのだけは排除しようとする。こゝに、尋四ごろまでの自治心の特徴がある。あるひは自治心などとは言へないかも知れぬ。自己主義である。大いなる自己主義が尋四初期の特徴であるといつたが當つてゐるかも知れない。しかし、私はこの大いなる自己主義、そこから眞

の自治心が芽ぐんで來るやうに思ふ。これは私の兒童を尋一から尋四まで、指導して、さう思ふのであつて、あるひは間違つてゐるかも知れぬ。自治會——級會——を開いて見る。すると、さかんに、「自分が誰某に妨害されて仕事が出来なかつた。」「人のけいこ中には大きな音や聲をたてないやうにしてほしい、仕事のさまたけになつて困る。」などと、自己本位の希望や、攻撃がなかなか多く出る。すると今度は、攻撃された方がだまつてゐない、「さういふけれど君が今日あんなことをするので僕は大人困つた。」と反駁する。一方が攻撃すれば一方も攻撃する。かうして、兒童たちの自己主義はだんだんと自律自治にかはつて行くのである。

二 自治組織の根柢

それでこの自己主義がより大きく發揮されるほど、自律、自治の心は深刻にきざみつけられるのである。だから、各個人が自己の仕事のためにより全我的であるほど、學級自治はよく具現されるわけである。牧野博士は

民約論の劈頭に彼は（ルソー）いつてゐる。「人はその生るゝや自由である。しかし、到るところ鐵鎖につながれてゐる」と。事實としての社會では、人々は、現に、鐵鎖につながれることの甚だしきに苦しまねばならぬのである。しかし、彼は叫んだ。「人はその生るゝや自由である。」と。

生るゝや直ちに鐵鎖につながれるべき運命のこの世では、人々は、その生るゝや互に自由なることを知らなかつたのである。彼の一言は、まづ、世の人々をして自己をさとしめたのであつた。

しかし、世の人々がお互にその自由を主張するのでは、實は互にその生存を全うしてゆくわけにゆかないのである。それで、彼は直ちに「社會的秩序」といふことを揚言してゐる。いはく「社會的秩序といふことは神聖なる法律である。これがすべての他の事物の基礎になるのである」と。

それで、問題は、一方において生來の自由といふことを豫定し、他方において、社會的秩序といふことを確認し、さうして、この兩者を連結し調和する要諦如何である。彼はこれを「契約」に求めたのである。

と言つてゐられる。兒童はたしかに自由を以つて生れて來た。小學一年にも、かれらは、やはり、自由を以つて入學して來た。ところが、學校にはいつて見るとそこには鐵鎖があつた。それは自分が社會生活の一員として自然に辿りついた鐵鎖ではなくて、教師といふ人爲が人爲によつてつくつた鐵鎖であつた。そのまゝの本性を表はさしておくと自然に行きつくところを、さうはさせないで、かうなければならぬと、教師が思惟したところに無理強いに従はせようとする鐵鎖であつた。だから、高學年になつて、自治とか、共同生活とか、協調生活だとか、いつても、それは眞に體驗から出た、自覺した自治でも、共同でも、協調でもない。かうしなければ教師から許されないと、いふ自治共同協調であつた。だから、苦しい。かけに行つたらそれからのがれようとする偽のものに他ならなかつた。これでは、自治も、自治組織も、形骸に止まるの外はない。

眞の自治、共同、協調は、體驗から來たものでなくてはならぬ。その體驗とは目ざめた自己主義である。自己主義が辿りついたところのものである。して見ると自治組織といふものゝ根柢は、各人が自己の生活に全我的であることにある。ル

「ソ」のいはゆる「秩序」といふものは、つまり各個人の全我的に仕事をするところが到達するところのものである。そして、その実現はルーソーの「契約」にある。「契約」とは單なる表面的の規約ではない。眞に苦惱せざる「契約」はすぐに破棄される。破棄しても何等の苦痛はない。いな、破棄することがかへつて、苦痛からのがれることになる。ところが、眞の「契約」——自己の満足なる生活のためになされる「契約」はこれが履行されることによつて、自己はますます幸福となるのである。なぜなれば、「契約」が自己の苦悶打破のために生れ出したものであり、さうすることが自己のよりよく生きる道であり、自らが生み出したものであるからである。

自治組織の眞の根柢となるものは、個人々々が自己の仕事に忠實であり、熱誠であることにある。だから、學級に於ける眞の自治や、自治組織は兒童の本性なる。「遊び」それから「遊びから仕事」と辿つて來たものに於て、はじめて、眞に實現し得るものである。したがつて、尋四に自治の成果をあげしめんとならば兒童たちをして十分自己の事に全我的ならしむることを要する。

三 尋四の自治組織

自分のことは柵に上げて、他人が自分をさまたげることを制止しようとするのが、この頃までの兒童の特徴である。そして他人に注意することによつて、他人から自分も注意される。こゝに、かれらは、自己が社會的の一員、團體生活の一員なることに目覺むる。この傾向を助長、發展させるものが自治組織である。自治組織はかうした兒童の傾向に乗じて組織されることによつて、眞の効果をあげることが出来るものである。

そこで、學級兒のこの傾向が著しく表はれるやうになつたら、學級兒相互に、互に他人に要求し、自己を反省し、それから、學級團體の共同の必要を自覺せしむるところの學級自治會を設けなければならぬ。

この學級自治會によつて、兒童たちが互に、相要求し、相反省し、そして、相互に共同の必要を意識したら、その實際運用の機會を設けなければならぬ。それには、個人

自治分團自治がある。

個人自治といふのは、各個人が自己を自律し、學級團體の一員としての責任を重んじて自己の仕事に全我を傾注することをなし、分團自治は何人かの分團を以て個人自治を互に相奨め相勵まし、そして、分團としての、學級に對する責任を盡すことをなし、學級自治會はこれら個人、分團の自治に對して反省せしめ、これを向上せしめ、更に學級の理想を樹立して行くことをなすものである。

かくして、個人や分團は學級自治の空氣を下より醸成し、學級自治會は上よりこれらにむかつて空氣をつくつて、兩々相まつて、學級團體の自治共同の實をあげることにつとめるのである。

四 各部の責任

だから個人は個人としての自治共同の精神を發揮するにつとめると同時に學級事務の一部を分擔して、學級團體向上の責任をつくし、分團は分團としての自治

共同の精神を發揮するにつとめると同時に、分團としての學級の事務の一部を分擔して學級自治の向上發展を期する。そして學級自治會は、つねにこれを開催して、これら各部を總括し、學級の空氣を自治的、共同的ならしむるにつとめなければならぬ。自治會に於いては各人は、學級の自治はもとより學級の學習方面にも希望を縷陳する。そして、全員がこれを可として認めるものが、いはゆるルーソーの「契約」となるのである。そして、その「契約」の實現に各人各團がつとめることになる。そこで學級自治といふことは、つまり、全員が、犠牲的精神を以て學級の經營をするといふことになるのである。

しかし、學級自治會は、いたづらに決議事項を多くすることになり易いものである。決議事項の多岐は不履行の因となるものであるから、よほど全員の共鳴を得るものでなければ容易に決議採用すべきものではない。それよりも、各人各團をして反省の資を提供するといふことを本位としたがよい。

第十四章 尋四の國語學習の經營

一 尋四讀方學習指導の主力點

一 經濟的學習の指導

尋四兒童の讀方學習は著しく不經濟である。無駄が多い。そして、讀方といふもの、精神、その材料のもつ牙城に到り得ないで終ることが多い。これが原因となるものは多々あるであらうが、その一は、尋三までにやつて來た綜合學習の影響にある。

綜合學習が不經濟な學習であるといふことは綜合學習自身には當らないことである。綜合學習は綜合的に學習經濟をなすものである。單なる一分科、一教科の學習として、これを見るときは、いかにも、多岐にわたり、重複があり、迂遠があつて、

不經濟なやうに見えても、兒童の全生活、全人といふことからすると不經濟でも何でもないのである。

ところが、尋四もその第一學期を過ぎると、いよいよ、時間割によつての分科學習に入る。入るべき状態が熟して入つたのではあるが、かの、綜合學習時代の全人としての學習の仕方、そのまゝをもつて、讀方を學習しようとする。いな、事實それをなすのであるから讀方學習としては重複し、無駄をなし、迂回し、顛倒し、時間を徒費する、いはゆる不經濟な學習をなすのである。

不經濟な學習の因をなすものに今一つある。それは、讀本の材料がいちじろしく生硬になつたことである。すなはち、形式に於て文語文が新出され、説明的態度の文章が續出し、兒童の日常生活を離れた言葉が急に多くなり、新出活字は激増して全學年の最高點に達して居る、内容上に於てはこれまでの兒童本位が、兒童の日常生活といちじろしくかけ離れたものとなつてゐる。かうした、内容形式の文を、しかも、これまでは自己の要求を解決するために讀んでゐたものが、こんどは要求なくとも、讀まなければならぬ、義務を以て讀まねばならぬことになるので、これま

でのやうに生活の自然のままの讀書であることが出来ない。かうして、學習の態度は動搖を來たすのである。かの、まづ、わからない文字をわかるために讀み、次にむつかしい言葉の意味を知るために讀み、次に文段の意味を知るために讀むといふやうな非生活的の讀み方を兒童たちがするのは多くこれがためである。

以上のやうな二つの原因のもとに、尋四の兒童たちの讀方學習は不經濟な、無駄の多い、そして前後一貫しないものとなつてしまふのである。もしも、このまゝにしておいたら、いよいよ困難に進み行く材料に對して、これらこれを支配するといふことよりも、材料のための奴隸とならなければならなくなるばかりである。尋四の讀方學習指導では特にこの經濟的學習といふことに留意すべきである。念のために、經濟的學習指導の一例をあけておく、

「小ぞうから主人へ」が學級の學習題材になつて、兒童たちは、各自に、自分で満足の出来るまでに、その材料の學習をなし終へてゐる。學習中から學習を終へた後、その學習したノートを見ると、いかにも、それぞれに學習はすましてゐる。けれど、迂遠な、不經濟な、思ひつき思ひつきした、筋の通らないものに過ぎない。

むろん、與へられた讀本材料のことである自己に熾烈な欲求があつて讀んだのではないから、これは、やむを得ないことではあるが、かくて、あるべきものではないといよいよこの材料から指導の手を加へることにした。

學級學習がはじまつて、めいめいが、その學習したところを發表する時が來た。

○なぜ「とりわけおいそがしい中を一週間もおひまを下さいます……」といふのか。これは、十二月の十四日といへば商店はせいもんばらひや、賣出しをするからである。そんなことのあつてゐる時に一週間もひまをもらふのだから……。

○「もう、四五日の所おひまを願ひたうございます」といつたわけは「醫者が老體のことゆゑ、餘程大事にしなければならぬ」といつたからです。「もう四五日」といつたのは、はじめに、一週間もおひまをもらつてゐるからである。

○「この小ぞうのうちはどんなうちか」年老いた祖母が一人家に居て、孫の淺吉が奉公に出てゐる。お母さんも、お父さんもなくなつて、おばあさんは、

この淺吉をたよりに思ひ、淺吉もこの祖母を父とも母とも思つて大切にしている。主人の家からは、さうたうに遠い田舎の方である。祖母は病氣になつてからはしきりに淺吉の歸りを待つたこととせう。それでも手紙がかけないから、近所の人がしんせつに、祖母にかはつて手紙を主人に出してやつたのでせう。

等、その他、

○病中の祖母がなぜありがた涙をこぼして喜んだか、

○主人と小ぞうとの間柄はどんなであるか、

○なぜ、醫者は餘程大事にしなければならぬと言つたのか、

○なぜ淺吉と名だけを書いて、姓を書かないのか、又御主人様として、主人の名を書かないのか、

○淺吉がかへつた時、祖母の心はどんなであつたらう、

○祖母の病氣を淺吉はどうして知つたのでせうか、

○淺吉がかへつて来るまで、祖母はどうしてゐたか、

○淺吉の方からおひまを願つたのか、主人の方から、ひまをやつたのか、私は主人の方からだと思ふ。なぜかといふと……

等、それぞれ自分で疑問し、そして自分一個の解釋を下してゐる。これに對して各自の意見が出る、その意見に對して、また意見が出る。これまでならば、これを出発點として、この課の指導をすゝめるところであるが今日は指導してやらう、學習法の指導をしてやらうとの考が私にあるので、

「皆は十分、この課の學習が出来てゐるらしい、そして、よく、この課がわかつてゐるらしい。だが、だいたい、無駄なことをしてゐるやうだ。この文の學習にとりかゝつてから、終るまでにどの位の時間をとりましたか、よほど前から仕がかつてゐた人もあつたやうだね。それでは、とても、やりきれぬものでない。だから、今日は私が、私の學習の仕方を話してあげるから、自分の學習の仕方とどんな點がちがつてゐるか、くらべてごらんさい。むろん、私のした通り、そのまゝ、を真似るではよくないが、これはよいと思ふ點があつたら、とり入れて、自分の學習法にしたがよい。とにかく、参考までに、私の話を話して見よう……」

まづ、私は、この手紙の文を読みかゝらない前に、この手紙を読む心をきめたね。その読む心をきめて、それで読んで行くと、中に書いてあることが、よくわかつた。皆はどんな心をもつて、この手紙を読みかゝりましたか………。

………そんなことはしない？………さうだらう、皆のノートの中には、はじめから、文字の読みや、言葉のわけなど書いたのがあつたから………。私はこの文を読む前に、この題目「小ぞうから主人へ」に問題を起したね。小ぞうといふものは主人の家に、いつでも居るべきものなのに、その小ぞうが主人宛に手紙を出してゐる。しかも、手紙を出す位だから、相當、遠く離れたところに居るにちがはぬ。何のために離れて、何の用を申送つてゐるのだらうか、かういふ疑問がまづ、私には、起つたのだ。それで、私はノートの最初に

一、何のために小ぞうは主人の下をはなれ、何の用事を言つてやつてゐるのか。

といふ問題を書いた。そして、それを解決しようと思つて、此の文を読みはじめた。そして、読んで行く途中で、「謹んで」と「週」といふ字の読みをし

らべてノートに書いた。文字はいつも、その時、その時に、かうして調べてゐる。そして

「謹んで申し上げます。取分けおいそがしい中を、一週間もおひまをいただきますまして、まことにありがとうございました。存じます。」

まで讀んだところが、

「おひまをもらつたお禮を言つてゐるのだなあ」といふことがわかつた。もすこし、讀んで

「病中の祖母も大そう喜びまして、ありがた涙をこぼして居ります。」

まで行くと、やはり、こゝも「おひまをもらつたお禮」で病中の祖母まで、ありがたがつてゐるといふことがわかつた。それで、私は、

一、謹んで（ツツしんで） 一週間（一シユウカン） 祖母（ソボ）

○こゝまでは、おひまをいたゞいたお禮を言つてゐる（自分の心と

とノートして、次を読みかゝつた。次は何を書いてゐるだらうと………。

「始は熱が高くて心配致しましたが、昨朝あたりから熱が下つて、食事も進むやうになりましたのでやつと安心致しました。」
まで読んで、

「おばあさんは始は熱が高くて心配してゐたが、昨朝あたりから熱が下り、食事もすこしづゝ進むやうになつて、安心の出来る状態にまでなつたのだなあ……………」

とわかつた。それで、こゝは

「祖母の病氣の有さま」

を書いたのだなあと思つた。

けれどもすこし読んで見なければ、と思つて次を讀んでゐると

「餘程大事にしなければならぬ。」

といふことがわかつた。それで、第二段目をまとめて見るとこゝは、

◎病中の祖母の容態

といふことになる。ノートには

二、熱 (ネツ) 食事 (シヨクジ)

○こゝは、病中の祖母の容態を知らせてゐる

(自分の見たところ、
醫者の言つたところ、

それから次に読みかゝつた。そして、

三、御願 (オネガヒ)

○こゝは四五日のおひまを願つてゐる。

のノートが出来た。

そこでだ。最初の問題、

何のために小ぞうは主人の家から離れてゐるのか。

そして、何の用があつてこの手紙を書いたのか。

とてらし合はして見た。すると、

祖母の病氣だから主人の家を離れて自分の家に歸つてゐる。

ことと、

いそがしい中をおひまをいたゞいたお禮。

と、

祖母の病氣のありさま。
と、

もう四五日のおひま願ひ。

といふことを主人に言つてやつた手紙だといふことがわかつて、最初問題にしてゐたところは、すっかり解決してしまつた。」

子どもたちは、なるほど……といつたやうな感動のおももちをしながら、

「先生の學習はそれですんだのですね」

と問ひかけて來た。

「ところがさ、私には、すぐに、又、第二の問題、が起きてきた。」

「何です。第二の問題とは……？」

「それはかうだ。この小ぞうが、この手紙の中で、これだけは、どうしても書きもらしてならいといふこと、つまり、一番、主な用事は何かをつきとめて見たいことであつた。私はこれを、かう（ノートをを見せて）書きとめて、再び読みはじめた。」

かういふと、子どもたちは、すぐ、

「おひまをいたゞいたお禮でせう。こんなに、とりわけいそがしい時に一週間もおひまをいたゞいて歸つて來たのだから……」

「いゝえ、私のしらべたところでは、それではありません。」

「祖母の病氣のありさまでせう。主人も、きつと心配してゐるでせうから……」

「いゝえ、ちがひます。」

「それでは、もう、四五日の所おひまを願ひたうございますでせう。」

「さう、そんなに、みな、のやうに、あれでなければ、これ、これでなければ、これ、と、ありつたけを並べて行つたら、その中のどれか、當るにきまつてゐる。さう言はないでしつくりと讀んで、しつくりと考へて、そして、これなら間違ひなし、これではなくてはならない。といふところを言はなければ、力のある兒とは言へないね。」

子どもたちは、苦笑しながら、文章を讀みはじめた。やがて、

「もう四五日のところ、おひまを願ひたい。」といふことだらう。」と言つた。

「いふことだらう。ではまだ自信がないのだね。」

「だらう。はつけません。取消します。」

「さうか、それならばよい。ではどうして、それでなければならなくなつた？」

子どもたちは入りかはり、立ちかはりして、それでなくてはならない理由を陳べた。

「さうださうだ、私の考と全く一致してゐる。皆は大ぶんえらくなつた。

……いかに、手紙のはじめにあるお禮も小ぞうのつとめとして大事なことはあるけれど、この際のことだから主人も心悪くは思はないであらう。だから、是が非でも書かなくてはならないといふほどのものではない。」

次の、病中の祖母の経過や容態を知らせることも主人の親切に對して大

事なことではあらうが、やはり、かういふ際のことだから、是非書かなくても主人はゆるしてくれるであらう。

だから、この二つのことは書落しても、さしせまつて、差支へるといふことではない。

して見ると、この小僧としての最も大事な用事、これだけはどうしても書落してはならない、この手紙を書くにいたつた大もとのことは第三番目の「もう四五日の所おひまを願ひたい」でなくてはならぬ。

私は本文を考へ考へ読みかへして、第二の問題の解決を得たのだ。」

「先生、それでも、うすつかり、すみましたか？」

「いやいや、どうして、又、第三の問題が起きた。」

子どもたちは目をまるくして、

「第三の問題て何？」

「お禮と、祖母の病氣の容態とはなぜ書いたのだらう？」

といふことです。むろん、書いておいた上はないが、四五日のおひま願ひ

のやうに、せつばつまつたことではない。それに、祖母の病氣の心配と、看病とに氣をうばはれてゐる中を、どうして、この小ぞうは、こんなことまで書くやうになつたのだらう。そこには何か書かなければならぬわけがなく
てはならぬ。そこで、私は、第三の問題として

「お禮や祖母の病氣の有様をなぜ書いたのだらう」
をノートに書いた。」

かういふと、子どもたちは、ちようど、自分で捉へた問題でもあるかのやうに、それぞれの考ふるところを互に發表し、討究するのであつた。そして、それは大たい私の思つてゐるのと同じであつた。私は、私の考へ得たところだとして次のやうなことを話してきかせた。

「まづ、謹んで申し上げます。取分けおいそがしい中を一週間もおひまをいたゞきました、まことにありがたう存じます。」の、小ぞうのお禮のことばであるが、これで見ると、この主人は日來この小ぞうにやさしくしてゐるこ
とが思はれる。小ぞうもまたそれをありがたいたいことだと感謝してゐる。

それに、今回といふ今回は冬の大賣出し、いくら人手があつても足りないといふ取分けいそがしい時を一週間も……この一週間ものものが特にきいてゐる……おひまをいたゞいてゐる。これも、小ぞうから願ひ出たのではなくて、きつと、主人の方から、一時も早く祖母のところへ行つて看病してあけるがよい。こちらのことはどうでもなるから。とすゝめて歸らせたのにちがはぬ。小ぞうが、これほどの手紙を書いてゐるくらゐのもの、日來のやさしい主人の心、それに今度の思ひやり、小ぞうの心はたゞ主人に對する感謝の情にみちみちて、ともすると、それがために涙ぐむくらゐにありがたく思つてゐる。その心がおひま願ひの筆をとつた小ぞうをして思はずこれを書かせたのであらう。

病中の祖母も大そう喜びましてありがた涙をこぼして居ります。は、日來の主人のやさしさを小ぞうから聞いて感謝の念にみちてゐる祖母、そして、今の時が商店にとつて一番いそがしいといふことも知つてゐる祖母、それに小ぞうがひよつくり歸つて來た。そして、話を聞くとかずかずの主人

の親切、とても泣かすには居られなかつたであらう。小ぞうはたゞ自分一人のお禮のことば位ではその心を盡くすことが出来ないで、思はず、祖母の喜びと感謝とをそのまゝ書いたのであらう。

次の祖母の病氣の経過や今の容態を書いたのは、これも書かすにはゐられないで書いたものと見える。主人はきつと、自分の祖母の病氣でもあるかやうに小ぞうの祖母の病氣を心配してゐるであらう。まして、祖母一人孫一人の小ぞうのことであるから、一そう深い同情がある。主人のこの心に對してはどうしても一通りの容態を申し上げなければならなくなるのが小僧のこの時の心。それに、このいそがしい時にもう四五日のおひまを願ふのであるから、よくよくの事情がなければ小ぞうとしてはお願ひする氣にはなれない。全く、この文は主人の心に對する小ぞうの心、ひいては小ぞうの境遇に對する主人の心、すなはち、心と心との交通のあらはれである、と讀むことが出来る。これで、私の第三の問題は解決したわけ。

どうだ、私の學習の仕方と皆の自分自分の學習の仕方とを較べたら、すこ

しはちがつてゐるところがありますか」

「ありますあります、大へんちがつてゐます。」

「どんな點がちがつてゐる？」

「先生のは題目を見て問題が起り、その問題によつて、その文を讀み、そして、その問題がはつきり解決すると、次の問題が起り、その問題が解決すると、次の問題が起るといふやうに、仕事がつつとつといてゐます。」

「さうださうだ。よいところに氣がついた。私は「小ぞうから主人へ」といふ題目を見て、

小ぞうが主人に手紙を書いてゐる。主人の家に居るべき小ぞうが手紙をやるからには何のために主人の家を離れてゐるのか、何の用事でこの手紙を書いてゐるか。

といふことが第一の問題となつた。そして、それによつて、この手紙の文を讀んだところが

1 おひまをいたゞいたお禮。

一 零四讀方學習指導の主力點

2 祖母の病氣の経過と容態。

3 もう四五日のおひまが願ひたい。

と書いてあつた。それで、何の用事で主人の家を離れ、何の用事を主人へ申送つてゐるのか、がすつかりわかつた。と同時に、この祖母の病中に書くほどの手紙だから、何かとりいそぐことがなければならぬ。すなはち、どうしても、このことだけは落してならぬといふものがなくてはならぬと思つて、

この手紙の中で小ぞうとしては是非書かなければならぬといふことは何であらうか、

の第二の問題が湧きおこつた。それによつて本文を考へ考へ讀むと、もう四五日のおひまが願ひたいといふことであることがわかつた。そこで、それなら、

他の二つの事柄は何故書いたのであらう。

の第三の問題がつゞいて起つた。そして、この問題によつて三たび考へながら讀むとすつかり、そのわけがわかつた。

かうした私の學習の仕方を皆の學習の仕方と較べて見ると、さきに、皆が言つ

たやうに、私には

問題と問題との間に始終脈絡がある、

仕事が始から終りまで一貫してゐる。

ところがある。

ところが、皆の學習の仕方ときたら、まづ、最初は何らの問題もなしに本文を讀みかゝつてゐる。

だから、讀んでゐる間でも心が一つにならないのである。他にそれ以上のおもしろいものがあつたりするとすぐ書物の方はそつちのけにして、その方に心が走るのである。次には

讀んでゐる間にいくつもの問題が出来る。四つも五つも出来る。

次はその四つか五つかの問題の一つ一つについて解決しようとして本文を讀む。一つが解決すると、次の問題、その問題が解決すると又その次の問題といふ風にやつてゐる。だから、

非常に時間の上に不經濟である。

おなじやうな仕事を何回でもくりかへしてゐる。しかも思ひつき、ほりつき、つくつた問題だから問題と問題との間、仕事と仕事との間は、はじめ讀む時と次に讀むときとの間に

何らの脈絡もない。一貫したところがない。

それで無駄なことをくりかへしくりかへししてゐる。更に他人がこんなことをしてゐると見ると他人の仕事までとり入れてしてゐる。つまり、皆のしてゐる仕事はよせあつめの仕事である。だから、いくら時間があつてもどんなに時間をかけても、もう大丈夫だ、すつかり仕事がかたづいたといふ時はなかなか來ない。

これに、くらべると私のやうにすれば、ものゝ三十分か多くとも一時間かかれれば大丈夫すんでしまふ。

まあ、私の學習の仕方がすこしでもよいと思ふ點があつたら採入れてやつてごらん。けつして、損にはならないだらう。」

かういふ話をしてやると、子どもたちは、大いに感動したらしく、この次の文か

らやつて見ようと、皆、勇み立つたものであつた。

私はかうして、讀方の學習法、——子どもたちの不經濟極まる、前後に脈絡もない、終始一貫するものゝない讀方學習法をすくはうとした——を指導しながら、この材料の精神にふれしめることにつとめた。さて、これから後、兒童たちが、どんなに學習法を變化させるであらうかと見物である。次の材料は「主人から小ぞうへ」である。

「お互にその學習の仕方を較べて見ることにしよう。」

といふことで、大はしやぎのうちにこの材料取扱の幕を閉じた。

「主人から小ぞうへ」の文の個人學習がはじまつた。兒童たちは非常な緊張ぶりである。この文を指導すると同時に文の學習方法を指導しようとして、私、いかなることをいかに指導するか、この手紙の文をくりかへし讀んだ。

いよいよ學級學習の時が來た。約束通りに、各自の學習順序をノートのまゝに互に發表することになつた。

「どうだ、すこしはかわつた學習の仕方が出來ましたか」

「出來ました。これまでよりも、おもしろく、そして、時間もずつと少くて……」

「それはよかつた。では、學習したそのまゝを發表してもらふことにしませう。」

一兒が起つて、そのノートのまゝを讀みあげた。むろん、説明のことばをはさみながら……。その大略をあけると、

「私はこの『主人から小ぞうへ』といふ題目を見て、

第一の問題——主人が何事を小ぞうに言つてやつてゐるか。

をとらへました。そして、それによつて、この文を讀んで行きました。すると、はじめに、どうかと案じてゐたが手紙で安心した。

つぎに、五日でも十日でもゆつくり看病するやうに。

そのつぎは、この爲替で好きなものを買つて上げよ。

といふことがわかりました。それから、それでは、

「大事な用事は何か」

といふことを第二の問題として研究しました。すると、

「こちらの方はどうでもなるから五日でも十日でもゆつくり看病してお上げなさい。」

の二番目の文だといふことになりました。これは、小ぞうから主人への手紙にもう四五日のところおひまを願ひたいと言つて來てゐるからです。これを書かなかつたら小ぞうから來た手紙の返事としては何にもならないことになりますから。次に、

「それでは他のところは何になるのか」

といふことが第三の問題となりました。そして、それは

小ぞうから祖母の容態をしらせて來たから、そのうけこたへと、爲替の方は小ぞうをかはいがる主人の心で病氣見舞のしるしだと思ひます。

これで研究はをはりましたから、後は漢字の練習とこの手紙の文を寫して練習しました。」

この兒の學習の仕方は、年度のこの材料學習の全兒の代表ともいつてよい

らるに、ほとんどすべての兒童のが一致してゐた。多少考へ方のちがひはあつたが、それらは後で互に意見の交換をして落ちつくところに落ちついてしまつた。

「主人から何ごとを小ぞうに言つてやつたか」を問題にしてこの文章に入り、それがわかつたところが第二の「何が一番主な用事か」が問題となり、それがわかると「其の他のことは何のために書いたか」と第三の問題として起つて來た……なるほど仕事がつつと互に關係して、一貫してゐる。これなら時間もよほど短くてすんだだらう。なかなかおけいこがお上手になつた。……しかし、この前の小ぞうから主人への時に私がした學習の仕方と全く同じやり方だね。」

兒童たちはふふふ——んと顔見合せて笑つてゐる。

「これでは、いさゝかなさけないね、何とか創作がありさうなものなのに……」

「先生の仕方はちがひますか、」

「大體は似てゐるが少しはちがふね。」

「では、こんどは先生の話を話して下さい。」

「話しますとも、それでは、又こんども、自分たちのとよく比較して、どこがちがつてゐるかをさとつてもらひたい。」

第一、私は「主人が小ぞうにどんなことを言つて來たか」などは問題にならなかつたね。

「なぜです？」

「なぜつて、「小ぞうから主人へ」の手紙の返事がこの手紙だから。それで、私には、主人がどんなことを小ぞうに言つてやつたかは、小ぞうからの手紙で大體想像がつくのです。それで、私はきつと、主人からの手紙には第一に

「おばあさんの病氣がだんだんよいといふことで安心した」といふことが書いてあるだらうと想定した。これは、あれほどの小ぞう思ひの主人であるから、小ぞうが家に歸つて行つた後では

どうぞ祖母の病氣がよければよいが、小ぞうはさぞ心配してゐるだらう、心細く思つてゐるだらう、はやくなほればよいが……

と、我がことのやうに心配してゐたにちがはぬ。それに小ぞうからの手紙に、昨朝あたりから熱が下つて食事も進むやうになりました。とあつたから、心からうれしく思つて、そして安心したことだらうと思はれる。その心のあらはれとして、其の後どうかと案じてゐましたが、手紙を見て安心しました。が出たのだらう。それと一つは、あれだけ祖母の病氣を心配してゐた小ぞうからその容態を知らせて來たのだから、それに對して何とかいはなければ禮儀としてもすまぬといふこともあらう。と思つて私はこの想定をしたのです。

それから第二には

『こちらのことは心配するな、ゆつくり、看病して上げるがよい』

といふことをきつと書いてゐるだらうと想定した。やはり、あれほどに、やさしい主人のことであるから、そして、小ぞうが、あれほど言ひ出しかねて、取分けおいそがしい中を一週間もおひまをいたさきまして、といひ、もう、四五日のところ

おひまを……といつてゐるのだから、これ位のことはきつと言つてやつて居るにちがはぬと思つた。わかりましたか、すこしは皆のとちがふところがあるだらう。皆のは

「主人からどんなことを小ぞうに言つてやつたらうか」

全く疑問でかゝつてゐる。ところが、私のはさうでない。

「主人はきつとこれのことを言つてやつたにちがはぬ。」

と想定してかゝつてゐる。私は小ぞうからの手紙を見てゐるから疑問といふものは起らないで、大體かうだらうとの豫想の方が起つて來る。どうだ。皆はやつぱり同じ心でこの手紙と、前の手紙とに對するのうか。全く、豫想はつかないのか」

「同じ心とはちがひます。豫想がつかます。」

と兒童たちは口々に言つてゐる。

「やつぱり、本氣で自分の心を知らうとしないからだ。この手紙にかいてあることを讀まない前に豫想がつかないなどいふことはあるべき筈でな

い。そんな兒は、私の學級には一人もゐないと私は思つてゐる。前の文の學習がかうだつたから、今度のもかうするなどいふやり方は最もつまらないものゝするやり方だ。そんなことをしてゐた日にはいつまでたつても力はつかない。一を聞いて百を知るといふことを昔の人は言つてゐる。さうならなくては、いつもいつも他人の尻馬にのつてゐなければならぬとになる。もすこし、心を働かして見るがよい、君がたの心はまだまだどんなえらいことにでも働くものだ。どしどし、自分で自分の仕事を發見するがよい。」

これにはさすがの元氣もの尋四兒童もなんとも返答が出来ない。ただ苦笑するばかり、しかし、この次こそはやつて見ようといふ意氣を眉宇の間に表はしてゐるものが多數見受けられた。

「話は前につゞくが、私はかうした豫想を立て、この文を読みはじめた。自分にこんな豫想を立て、讀むと、その文が實にはつきりと頭に入つて來るもので、私は

「おばあさんの御病氣がだんだんよいといふことで安心しました。」
とでも書いてあるだらうと豫想してゐたのに。

「其の後どうかと案じてゐましたが手紙を見て安心しました。」

と書いてある。いかにも、うまいことを書いたものだなあとほとほと感心した。「その後どうかと案じてゐましたが……」小ぞうが主人に別れをつけて、いそいで祖母の下に歸つた心の中が、わづかな、これだけの言葉の中にすつかり含まれてしまつてゐる。「その後」どうかと案じてゐましたが「私の思ひもつかぬ、しつくりした言葉をつかつてゐる。私の頭にはひりひりとその妙味がはいつて來る。これは全く、豫想を立て、讀みかゝつた賜である。次に私は、

「こちらのとほ心配しなくてもよいから、ゆつくり看病してお上げなさい。」
と豫想してゐたのに、

「こちらの方はどうでもなるから心配するには及びません。祖母一人孫一人の事だから、五日でも十日でも一人で寢起の出来るまでゆつくり看病してお上げなさい。」

と書いてある。骨だけは似てゐるけれど、こんな風に書くと感じがずつとよくなる。『こちらの方はどうでもなるから』『どうでもなるから』とはよくも言つたものだと思はせられた。『五日でも十日でも、ゆつくり』この言葉にも私はおどろかされた。取分けいそがしい時である。困つたなあとは思つても、こんな『五日でも十日でもゆつくり』などいふ氣にはなれないものである。五日でも十日でも、といふ心は十日でも十五日でも、十五日でも二十日でもと同じ意味でいつまでも、いつまでもといふ意である。心から小ぞうに同情をもつてゐる、思ひやりの深いこの主人の心根が、造作もなくつかつてゐるこの言葉の中に思ふ存分あらはれてゐる。私はこゝを讀んで大へん智恵づけられたやうな氣がしてうれしかつた。これも最初に豫想を立てて讀んだおかげだ。』

「それでは先生、爲替のことはどうなりますか」

「そこだ、これも、全く豫想して讀んだ賜で大いに私の眼を開いてくれた。私は全くこのことは豫想してゐなかつた。前の二つのことは大體豫想が適中してゐたけれど、こればかりは豫想の外であつた。」

「此の爲替はほんのわづかですが、何か好きな物を買つて上げて下さい。」これを讀んで、このことがぎくりつと私の胸に來たのも、しかし、全く豫想して讀んだ結果であらう。そこで、私には矢のやうに問題が、はじめて起つた。

「どうして主人はこんな爲替まで贈つてやつたのだらう。」と。そして、すばやく、

「これは全くこの主人の美しい心のあらはれである」

と思つた。思ひやりの深い、小ぞうを我が子のやうに思つてゐる主人の心のほとばしりが、とうとう、この爲替をおくらせずにはおかなかつたのだと思つた。かう思つて、小ぞうから主人への手紙、主人から小ぞうへの手紙をさらさらつと讀通してゐると、この主人の心根や有様がありありと目の前にうかんで來た。

その後どうかと案じてゐましたが手紙を見て安心しました。

こちらの方はどうでもなるから心配するには及びません。

五日でも十日でも一人で寢起の出來るまでゆつくり……

これらは主人の手紙の中にあるのだが、小ぞうの手紙の中にも主人の人とな

りをうかがふことの出来るところが多々ある。小ぞうの感謝、病中の祖母の感激、小ぞうが祖母の容態を言はねばおられないやうになつたところ。まことに勝手がましいお願ひでございますが、もう四五日のところおひまをといふところ、全く主人のやさしい心に對してあらはれた小ぞうの言葉とかして思はれない。すなはちこの二つの手紙は主人のやさしい心一ばいでうづめられてゐる。あゝ、ほんとに、やさしい主人だなあと思はざるを得なかつた。とともにこんどは

「小ぞうもやさしい人、美しい心ばえの人」

といふ心が私にわいて來た。主人に對してのこの手紙、主人から、これほどにまでいたはられてゐる小ぞうである。これを文章の中からひろひあけるとすべてが又そればかりになる。

そこで、この二つの手紙は主人と小ぞうとの美しい心と心とのあらはれであるやうな氣がして、私は最後にくりかへしくりかへしそれを味ひながら讀んだ今では全くこれを暗記するまでになつた。」

と味ひ、味ひの態度で暗誦して聞かせると、子どもたちは、し——んとなつてきいてゐる。

「さ、すこしは、自分のおけいこの参考になりましたか。この課はこれ位にとめて、明日からは次にうつりませう。それとも、皆でこの課をといふのがあるなら、それにうつりませう。」

二 正確なる讀解

尋四の讀方學習指導で主力とならなければならぬことの一は「正確なる讀解」といふことである。なぜ、尋四にかぎつて、こんなことの必要を言はねばならないか、尋三及び尋四第一學期までの綜合學習をうけてゐる尋四兒童の讀方はその讀解がはなはだ不正確であるからである。綜合學習に於ける讀解は自己の満足を得ることが主となつてゐた。自己の要求が解決されさへすればそれで満足されてゐた。自己本位の讀解であつた。讀方の獨自性、讀む材料の獨自性を擯むことが主ではなくて、自己の満足が主であつた。それで、讀解としては低級たるをまぬがれない。これは、生活助成を目標とする讀方であつて、生活覺醒を本位とす

る讀方ではないからである。それで、多少讀解に不正確があつても、何ら困ることがなかつたからである。

ところが尋四になると、さうはゆかない。第一材料が硬化してゐる。第二に自發要求のもとに自らが材料を選んで讀むのではなくて、半ば課程といふ義務のために讀まねばならなくなつてゐる。第三に、生活助成のために讀むのではなくて、生活を覺醒しようために讀むのである。だから、「正確なる讀解」をはなれては何事も成立たなくなつた。

ところが、綜合學習をして來た兒童の讀解は尋四になつて讀方を分科として學習するやうになつても、やはり、不正確な讀解をうけついでゐる。

大キサカライツテモ、強サカライツテモ、鷲ハタシカニ鳥類ノ王デアル。金アミノ中ニ飼ハレテ、ジツトシテ止リ木ニ止ツテキルノヲ見テモ、怒ツテキル肩サキノ曲ツタ大キナクチバシ、スルドクテ落着イテキル目、トガツテカキノ如クニ見エル爪、コゲ茶色ノ羽、アクマデガンジヨウナツバサ、尾、何所ニ一分ノスキモナク強ミガ全身ニミチミチテキル。マシテ、自由ノ天地ニ居テ、自在ニ

空ヲトブ様ハ、實ニ勇マシイモノデアル。スナハチ、一間餘モアルツバサヲハツテ數分ノ間、羽バタキ一ツセズ、空中ヲノシテ行ク。サウシテ何か地上ニエモノヲ發見スルト、スツト下リテ來テ、急ニツバサヲチヂメ、風ヲ切ツテマツシグラニエモノノ上ニツカミカカル。狐狸、兎、豚ナドハ彼ノ求メル物デアルガ、マレニハ庭先ニ遊ンデキル子ドモヲサラツテ行クコトモアル。

鷲ハ遠ク人里ヲハナレテ深山ニスム。巢ハ至ツテソマツナモノデ、人ノヨリツケナイ絶壁ノ間ヤ老木ノ上ニ、タテ横ニ小枝ヲ並べ、其ノ上ニヤハラカナコケヲ置クダケデアル。春ノ初ニ二三ノ卵ヲ産ミ、五週間程アタタメテ、ヒナニカヘス。ヒナヲ育テル間ハ最モ氣ガ荒クテ家畜ヲサラフノモ多クハ此ノ時デアル。

この文を讀むのに一般の子どもたちはどうするか、たゞ、自轉車で勸工場を通つて行くやうな讀方で満足してゐる。

大キサカライツテモ

強サカライツテモ

鷲ハタシカニ鳥類ノ王デアル。

とは讀んでゐない。

……鳥類ノ王デアル。

金アミノ中ニ飼ハレテジツト止リ木ニ止ツテキ
ルノヲ見テモ……

自由ノ天地ニ居テ自在ニ空ヲトブ……

といふ風にはつきりとは讀んでゐない。これらは文の切れ目を讀解スルことが
出来ないからである。殊に、

見テモ……のモ

何所ニ一分ノスキモナク……の何所ニ

マシテ

スナハチ

などに至つては全く無關心で通り過ぎてゐる。

ジツト止リ木ニ止ツテキルノヲ見テモ

のモの字は「止り木に止つて、じつとしてゐるのは普通、やさしく見えるものであ
るが、この驚にかぎつてさうでない」の意味がある。

「何所ニ一分ノスキモナク……」

の「何所」には「怒ツテキル肩」「サキノ曲ツタ大キナクチバシ」「スルドクテ落
着イテキル目」「トガツテカギノ如クニ見エル爪」「コゲ茶色ノ羽」「アクマデモガ
ンジョウウナツバサ尾」が含んでゐる。これらが、兒童たちには何の變哲もなく讀
み過ごされて行つてゐる。それから、

「マシテ」

は多く、「ソノ上」

「スナハチ」

は、「トリモナホサズ」などと、ノートに「語句のわけ」として書いてゐる。單な
る「ソノ上」であり、單なる「スナハチ」である。ところが、この「マシテ」は

「金アミノ中ニ飼ハレテ、ジツト止リ木ニ止ツテキルノヲ見テモ、怒ツテキル
肩、サキノ曲ツタ大キナクチバシ、スルドクテ落着イテキル目、トガツテカギノ
如クニ見エル爪、コゲ茶色ノ羽、アクマデモガンジョウウナツバサ尾、何所ニ一分
ノスキモナク、強ミガ全身ニミチミチテキル」

をうけて、

「自由ノ天地ニ居テ、自在ニ空ヲトブ様ハ、實ニ勇マシイモノデアアル。」
に及んでゐる。この語の關係し、この語が支配してゐる區域は實に廣く、大きいのである。それを單に、「ソノ上」の替へ言葉で通過してゐる。「スナハチ」にしても同じである。

「自由ノ天地ニ居テ、自在ニ空ヲトブ様ハ、實ニ勇マシイモノデアアル」
をうけて、

「一間餘モアルツバサヲハツテ、數分ノ間羽バタキ一ツセズ、空中ヲノシテ行ク。サウシテ、何か地上ニエモノヲ發見スルト、スウツト下リテ來テ、急ニツバサヲチヂメ、風ヲ切ツテマツシグラニエモノノ上ニツカミカ、ル。」

に及んでゐる。すなはち、「スナハチ」が支配してゐる文の區域は非常に大である。それを單に「トリモナホサズ」の替へ言葉で通り過ぎてゐる。

こんなことで、どうして、他人の文章を読むことによつて、自己の生活を覺醒しようなどといふことが出來ようか。まして、他人の文を鑑賞するとか、他人の文を機

縁として自己を創造するとかいふことが出來ようはずはないのである。しかも、文章はいよいよ硬化し生活とはいよいよかけ離れるところの讀本をもつてゐる尋五尋六をひかへてゐる尋四である。この正確なる讀解能力を有たなくて、どうして、それが迎へられよう。こゝで不正確に、有耶無耶にしてゐたら尋五六に進んだら、いよいよ、不正確有耶無耶でゐなければならぬのである。

尋四の讀方指導に、この「正確なる讀解」の必要なる所以はこゝにある。正確なる讀解には特に「文の切り方」代名詞副詞、接續詞、それから長個文の讀解等に留意しなければならぬが、それについての説明は他日にゆづる。

三 多讀

綜合學習の時代は讀書はかれらが自ら進んでなすところのものであつた。むしろ、分科學習として讀本を學習する尋四になつても、この状態にかはるところはない。のみならず、ますます熾烈となるものである。しかし、いかにせん、十幾つといふ分科におはれて、だんだんと、その餘裕がなくなつて、心ならずも、多讀の方面に手が出せなくなる。そして、その手の出せなくなることが、やがて多讀しないやう

になり易いものである。この傾向は、もつとも悲しむべきものであつて、讀書といふものが單に、讀本、修身教科書といふものに限られてしまつて來る。これでは讀書力の進展も何もあつたものではない。分科になればなるほど、指導者は兒童をして多讀せしむる工夫をしなければならぬ。これが兒童の本能ともいふべきものを満足せしめ、その上、いろいろの効果をあけることになるのである。多讀の効果及び、多讀指導の具體案は尋五學級經營案に委しく陳べてゐるからそれにゆづつてこゝでは尋四として、この多讀を讀方學習の一つの重要な要點としてあけておくに止めておく。

以上、尋四の讀方學習の要點として三つをあげたが、此の他にも、まだなすべきことが多々ある。鑑賞眼の指導や、創造表現の養成、漢字の確得等がそれである。けれど、これらは「正確なる讀解」の力があつてはじめて、眞に、出來得ることである。しかも、それらは讀書の本能として當然、つねに、兒童の心にはたらいてゐるもの、いかなる學年に於ても、これを指導して來たことであり、この後も指導すべきものである。だから、この尋四に於ても爲すべきことではあるが、以上の三項、「經濟的の

學習」「正確なる讀解」「多讀」に主力をそゝぐと同時に並行的に、これを啓培するといふ態度で進んで行つたらよい。尋四の材料と、兒童の状態からは、どこまでも、以上の三項に努力の焦點を結ばなければならぬ。

二 尋四綴方學習の要點

尋一、二、三、と兒童たちは、これまで、自己の生活を題材として自己の言葉で書いて來たものである。純な純な綴方をやつて來たものである。それで綴方といふものが、従來の如く、しかく、取材の範圍が狭いものでないことも十分承知してゐる。それから綴方といふものが自己の放射だといふことも十分體得してゐる。

そこで、尋四に於てはこの状態の上に今一步を進めて、放膽に、豊富に、思ふまゝ、あゝ、あゝ、を書くといふことにつとむればよい。思ふ存分書け、緻密に書け、思ふままあるがまゝに書け、これが尋四綴方指導のモットーでなくてはならぬ。「すべてをさらけ出せ、然らざれば矯正も指導も出來ない。」でなくてはならぬ。すべてを

さらけ出させないで、右に出るを叩き、左に出るをぶち、あるひは、綴方の知識を注入してゐたら、小ましやくれた、型に入つたものは出来ても、兒童の生活は出ない。兒童の生活の出ないところには、綴方は生活とは何らの交渉も有たないのである。のみならず、かへつて、生活の生長には毒である。綴方は、どこまでも、生活の放射であり、建設であり、深化、求心でなくてはならぬ。放膽に、豊富に思ふまゝ、あるがまゝ、を書くこと、これが、すなはち、この時代の兒童のそれである。

一頁は二頁に、二頁は三頁に、三頁は四頁に、四頁は五頁に書け、よく読みかへせ、そして、文字を念入れて書け。私は、つねに、かう言つてゐる。そして、その成績物は、個人個人について、その眼前で指導する。その指導された兒は、再び、推敲する、これで十分と思つた兒が、學級學習で朗讀する、他は聽聞する。私からも、色々の文例を読みかせる。それは、放膽と、豊富と、思ふまゝ、あるがまゝ、に書かれたものを、である、かうして、各兒は、自己の生活の範圍を、擴充し、綴方の取材の範圍を、擴充するのである。

三 尋四國語學習の環境

國語學習の環境といふものは、讀本材料が各方面にわたつてゐるだけ、各方面にわたつて設備されなければならぬ。けれど、讀物や、参考書をおいただけでよいものではない、要は、學習氣分の振作にある。その振作は、一に教師の手腕によるのではない。こゝには、單に、教室に備付くべきものを、あけることにする。

尋常小學讀本全部

文部省著

尋常小學國語讀本全部

文部省著

日本兒童文庫

北原鐵雄編

小學童話讀本

菊地寬著

日本童話寶玉集

楠山正雄著

一郎の讀方

秋田喜三郎著

讀方學習の仕方

山路兵一著

讀方と綴方

- 朝鮮國語讀本
- 外國讀本の中から
- 課外讀本
- 標準國語讀本
- 鑑賞讀本
- 興國課外讀本
- 兒童文學讀本
- 帝國少年讀本
- 尋常小學練習讀本
- 讀本自習書
- 國語讀本學習辭典
- 國語讀本教授書
- 少年文庫讀本物語

- 河野伊三郎著
- 朝鮮總督府著
- 眞田幸憲著
- 葛原 幽著
- 東京兩高師訓導著
- 田上新吉著
- 興國教育會著
- 蛭川龍夫著
- 久留島、小林著
- 友納、田上著
- 野澤正浩著
- 秋田喜三郎著
- 三浦、橋本著
- 友納友次郎著

少年讀物愛馬物語

- 文學副讀本
- 家庭用兒童劇
- 學校家庭用小脚本
- 趣味の課外讀本
- 日本國民傳説
- 少年古事記物語
- おさな物語
- 愛兒叢書小さき鳩外
- 家庭學校劇と對話
- 幼きものへ
- 十五夜お月さん
- 小學生全集
- 文と文話

芝田清吾著

- 小野田、白鳥、田上著
- 坪内逍遙著
- 同
- 金子彦次郎著
- 高木敏雄著
- 島崎藤村著
- 田山花袋著
- 本間久雄著
- 島崎藤村著
- 野口雨情著
- 菊地 寛編
- 秋田喜三郎著

英子の綴方

同

自由畫、童話、綴方

大阪朝日新聞社著

おもしろく綴るには

吉田三男著

學校家庭綴方學習

五味義武著

三四年の國史^上_下

池内房吉著

童話の日本史

吉田助次著

童話の日本史

伊藤白洋著

第十五章 尋四修身學習の經營

一 尋四修身學習の要點

修身學習の指導の要諦は、兒童の道德的生活を理會して、それを善導して行くことにある。しからは尋四兒童の道德的生活は如何であるかといふと、かれらが理想とし、敬仰する人物は、あるひは加藤清正といひ、あるひは二宮金次郎といひ、あるひは乃木大將といふが如く、多く現存はしてゐないが、過去に於て現實に生活した人物である。それから尋四にもなると、以下の兒童に比し、いちじるしく自制心が芽生えて来る。あるひは下級に對する上級としての、あるひは、自分自身としてかかることはしてはならないといふ心を働かすが如きがそれである。しかし、これは理想とする人物の言行や、父母、教師などの訓誡から來るのであつて、眞の道德的

自己尊嚴がさうさせるのではない。たゞ、自己が尊敬する人物の道徳的意志や、判断や感情や、言行が、そのまゝ、自己の心内に移り住んでゐるといふまで、ある。だから、まだ、かの衝動的生活をやつと他律的に抑制するといふに過ぎない。しかし、この修養を積んでゐるうちに、いはゆる衝動的な生活、發動的な生活をして、ついに理想化、道徳化するに至るものである。

かう見て來ると、尋四の兒童は過去に於ける現實的偉人を敬仰し、そして、他律的ながら、自らを自らで律しようとする積極的態度の芽をもあらはしつゝ、あるといふ事が出来る。そこで、その修身の學習指導に於ても、大いに、積極的の行動を奨励し、自己の意志を以て活動させ、しかして、これを批判せしめ、そして、そこに道徳的偉人の言行に感動せしむるといふことを要點とすることが必要となつて來る。どこまでも「かくしてはならぬ」「これはよくない」といふ禁止的に出るでなく、「かくあるべし」「大いにやるべし」の積極的態度を探るべきである。言葉をかへると、赤裸々に活動せしめ、行動せしめて、それを教師の訓諭なり、道徳的偉人の言行なりに、てらし合せて、自らが道徳的の意志、判断力、感情を陶冶し、道徳的の意志

を高めて行くやうにさせなければならぬ。

二 尋四修身學習の設備

修身學習の環境は生けるものでなくてはならぬ。教師は常に兒童の環境を圍繞するあらゆる方面に留意して、兒童をして、これに對して、かれらの道徳的心意活動の眼を開かなければならぬ。教室設備の如きは第二義的のことである。

學校家庭修身の話

修身文庫

少年美談

少女美談

内外教訓物語

小公女

小公子

二 尋四修身學習の設備

特に古今の偉人傳

新聞の記事中、少年に關する美談や、大人の行爲にしても、兒童の道德的生活に近いものはぬからず、これを利用すべきである。

第十六章 尋四算術學習の經營

一 尋四算術學習の要點

一 綜合學習時代の算術學習

綜合學習——生活指導の教育であつたから、むしろ算術といふ學科は存在しなかつた。生活の欲求、それを満足し、解決する手段として計數的のこと、計量的のことが必要なる場合は、それをとつたものであつた。だから、私の算術の學習指導（かりに算術學習といふ名を用ひていふと）には、兒童をして教科書といふものによらしむる必要はなかつた。それから、世に所謂、實物、實事にあたらせて實驗、實測をさせる、作問させる、必要もなかつた。教科書に據らしめたり、他の算術問題集によらせたりすれば、それは、兒童に生活させることではなくて、兒童の生活を教科書

や、問題集の虜にすると同じである。實驗、實測させるのは、やはり算術のために算術を學習するのであつて、兒童たちが、その虜となるのはやはり、教科書や問題集によらしむるのと五十歩百歩である。生活のための算術ならば、生活がそれを方便としてとらなければ、發展、向上することが出来ないといふものでなくてはならぬ。やけついた必要感のもとに爲されるものでなくてはならぬ。

私の兒童の綜合學習時代はかうして、算術を學習し、かうして數量の觀念を發展させ、かうして計算能力を得て來たものである。

二 尋四の算術學習

尋四は分科として算術を學習する。けれど、かの綜合時代の學習法を變改する必要はむろんない。このまゝを、尋四の兒童の算術の學習法とすればよい。たゞ、尋四として特に力をそぐべきことが二つある。

1. 生活の擴充、即數量生活の擴充

が、その一である。時間割が一定し、そして、その時間に、算術をしなければならぬことになると、勢、算術を算術としてのみ見て、その範圍を、だんだん狭少にするもので

ある。狭少といふことは、多少、奇矯の言のやうにあるが、事實、兒童たちはさうなり易いのである。單に、兒童たちばかりのことではない、教師その人までが、さうした傾向をもちたがるものである。これは、自己の生活が擴がり進むがまゝに進んでゐるものが、一たび、算術といふ限界をつくるといふことになる、これまでは、必要かくべからずとなした方面のことも、不必要となり一顧の價值もないもの、やうになるものが出来るからである。

ところが、算術といふものを單に算術として見ても、これが四年の仕事であり、これが五年の仕事、これが六年、高等科の仕事といふやうに他人が人爲的に定めたものが、必ずしも四年、五年、六年、高等科にならなければ必要がないといふものではない。いな、これらはすべて、どの學年の生活にも必要なものである。決して、學年的に、題材や數量が限定されるべきものではない。必要な機會に、これを學習する。學習の効果は、けだし、これより大なるものはないのである。

そこで、尋四に於ける算術學習は、その題材の範圍をつねに擴張し、擴張するといふことが何よりも大切である。題材の範圍を擴張するといふことは、兒童の生活

の範圍を擴張することによつて出来る。兒童たちの生活を擴げることにより努力さへすれば、かれらは、小數でも、分數でも、比例でも、歩合算でも、幾何でも、代數でも、開平でも必要とするに至り、そして、それを學習するに至るものである。私の尋四兒には、これらのすべてに這入つたものが相當多數あつた。これは、全く、その生活を擴張し、擴張しするからの結果に他ならない。だから、教師は、兒童の生活、活動の微に入り細に入りて注意し、いやしくも、とつてもつて、擴張、發展の萌芽あるものは、どしどしこれを育て、やらなければならぬ。だから、分科擔任制になつても擔任教師は、その理科の時間にも、手工の時間にも、唱歌の時間、體操の時間にも、すべての時間に、兒童とその行動を共にし、兒童に接觸してゐなければならぬのである。

かうして、我々は尋四學年に於て、文部省が配當してゐる尋四以上、高等科の題材はもとより、それ以上のものにまで、あらゆる方面あらゆるものにわたらせる覺悟を以てかゝらなければならぬのである。環境整理の一部面として、いろいろの算術要具を設備したり、教科書をもたせることは、それは、それを學習させるためではなくて、生活が欲求する方便として、算法の會得のために實驗し、實測するものに外

ならないのである。次に、主力をそぐべきものは、

2、正確、敏速の計算能力

である。五年以上となれば、複雑な小數が出で、分數が出で、比例が出る。そしてその計算はいよいよ複雑となる。與へられたる教科書がさうであるばかりでなく、生活が欲求した題材の計算がまたさうである。單に、五年以上に進んだ時のためのみではない。尋四そのもの、捉へる題材の計算が、すでに、それを必要とする。題材の擴張は出来るが、計算能力がそれに伴はぬといふのが、尋四兒の算術學習に於ける實狀である。したがつて、折角擴張されやうとする題材の範圍も、計算能力のために牽制されることが多い。計算は、題材の身に從ふ影のやうなものだからである。

かうして、尋四そのものから言つても、來るべき尋五以上のためから言つても、この計算能力の正確と敏速を期することは、尋四の算術學習に重大なる地位をしむるものといはねばならぬ。そこで、尋四に與へられたる程度のもものは、これを下限として十分、その敏速正確なる計算をなし得るまでには、これを指導しておかねばならぬ。むしろ、下限はあるけれど、上限は開放されて、能力に應じて、いくらでも伸

ばすといふことはいふまでもない。

三 教科書の取扱

教科書は國家が制定したものでこれを輕視することは出来ない。たと、教科書に生活を捉へられてはならないといふのである。生活によつて、驅使するといふことを條件として教科書を重視する。教科書を生活が驅使するといふことには二方面ある。

手工で小鳥の箱を製作しようとする。板を教師に求めなければならぬ。設計圖をつくつて、どれだけの面積を要するかを求めなければならぬ。あひにく一邊が五十二糎五耗、他の一邊が三十八糎七耗、これを幾平方糎で出すのは苦もないけれど、教師からは何平方糎で申出せといはれる。それが、兒童には、どうしてよいやらわからない。そこで、教師に相談する。教師はたゞちにこれを教へる場合もあるが、時と兒童によつては、教科書の何頁から何頁までを研究して見よといふ。兒童は教師から指示された頁をくつて、研究する。教科書に使はれてゐるのではなくて、教科書を驅使してゐるのである。これが教科書驅使法の一、

生活によつて算術を學習し續けて來た。もう第一學期も終る。あるひは第二學期も終る。第三學期も終らうとしてゐる。自分は果して、どれだけの力をもつてゐるか、これを試したいものだ。試めすとすれば何がよい？、全國兒童の一般に共通して與へられたる教科書之さへ容易に出來れば、自分の力は全國兒童の域あるひはそれ以上の域にあるとがわかる。力試しのために、學期末、又は學年末に之を使用して見るといふ、いはゆる、力試しのために使用するのがその一である。

私は、尋四の第二學期までは教科書はたゞ前者の場合をのみとつて、兒童たちには、ひたすら、生活そのもの、要求する算術を學習させた。正に、尋五を迎へようといふ第三學期になつて、後者を併進させた。やつて見ると、もとより、それ以上の能力はあるけれど、所々に、抜けてゐるところもある。これらは、わづか一回通過しただけでは足りないから、何日に何頁まで、何日に何頁まで、何日に第何回を終るといふやうな計畫を立てさせて、初めから終りまでをくりかへし練習させた。わづか第三學期だけで二十回以上もくりかへした兒があるが、それらの兒童が尋四の教科書をすつかり腹に入れてしまつたのは言ふまでもない。

一 尋四算術學習の設備

算術の環境は兒童の生活を圍繞するところのもの全部である。たゞ、教室に備付くるところのものは、それらの實驗用のものに過ぎない。

又算術の設備は兒童自身にてこれを製作することの出来るものが甚だ多い。私の尋四兒は、球の體積を求める器、各種の幾何形態、及それが求積の説明器、角錐の體積を求める器、圓錐及圓錐臺の體積を求める器等種々製作したものである。製作はそれ自身がすでに、定理を實際化し、理論を具體化するもので、製作そのもの、過程に於いて算術學習上有効なるばかりでなく、目的物の計算能力そのもの、體得にも非常に有効なものである。實驗器の製作まで行くことは算術學習上、何よりも必要なことであつて、しかも、兒童はそれをなし能ふのである。次にはたゞ、教室にどんなものを備ふべきかの標準を示すに止むる。

1 圖書の部

算術教師用書全部

文 部 省 著

合科學習の仕方による算術問題の作り方

池田小菊著

算術補題集

伸本三二著

兒童の數學(幾何篇)

同

毎日年鑑

毎日新聞社著

朝日年鑑

朝日新聞社著

鐵道旅行案内

鐵道省著

本 曆

統計年鑑

統計局著

2 器具の部 (×印は個人持、他は兒童數に應じて設備)

一米尺

×一米紙尺

×三十糎尺

十米卷尺

百米麻繩

二〇米卷尺

五米卷尺

一立の方形樹

二 尋四算術學習の設備

- 五 磅 方 形 砵
- 二 磅 方 形 砵
- 一 磅 方 形 砵
- 一 立 圓 筒 砵
- 五 磅 圓 筒 砵
- 二 磅 圓 筒 砵
- 一 磅 圓 筒 砵
- 一 〇 厘 計 量 器
- 一 分 計 量 器
- 一 立 計 量 器
- 二 〇 〇 瓦 秤
- 一 〇 〇 瓦 秤
- 五 〇 瓦 秤
- 一 〇 瓦 秤

- 一 〇 斤 臺 秤
- 五 斤 臺 秤
- × 三 角 定 規
- 大 三 角 定 規
- 丁 形 大 定 規
- 大 コ ン バ ス
- × 小 コ ン バ ス
- × 分 度 器
- グ ラ フ 用 方 眼 塗 板
- × 方 眼 紙
- 各 種 幾 何 形 態
- 各 種 體 積 實 驗 器
- 寒 暖 計
- 時 計

- 各 種 模 擬 貨 幣
- 各 種 模 擬 株 券
- 納 稅 告 知 書
- 納 稅 傳 令 書
- 徵 稅 令 書
- 日 用 物 價 表

- 郷 土 の 物 産 額 表
- 郷 土 人 口 戶 數 表
- 縣 勢 一 班
- 各 種 の 空 瓶
- 各 種 の 空 罐

第十七章 其の他の學科學習設備

理科圖書手工唱歌體操については、私として心に描いてゐることがないでもない。しかし、これらの諸教科は分科擔任制となつて、専門の教師が指導してゐて下さる。それで、これらの指導要點を、何に置くかなどいふことは、私としては要するに空論に過ぎないことになるし、又、讀者もさう思つて下さることと思ふから、貴重なる頁を、これがためにさくことをやめて、他に廻はすことにした。

しかし、學習の精神は要するに誰でも大同小異、兒童の生活を發展せしむるために、その分科の獨自性を指導するにあることは言ふまでもないことである。たゞ、大同の中の小異、それは、その教師々々の個性と技量とによつて生ずるもので、いかんともすべからざるもの。だから、私は、つねに、これらの専科の指導者の時間には、兒童と共にその教室に行つて、兒童たちが、いかなることを指導されて居るか、私自身の指導がいかなる特長と缺點とをあらはしてゐるか、それから、各指導者の特長

にして、自分に學ばなければならぬ點は何か、それを得ようとつとめてゐる。次の各教科の設備は、これら分科擔任の教師の指導を仰ぎ、それに、私の考を加へて作つたものである。

1 理科學習の設備

小學理科教科書全部	文部省
同 教師用	同
母の指導する理科	神戸伊三郎著
現代學界の不思議	同
地上界の不思議	同
兒童の昆虫學	同
兒童の植物學	同
兒童の動物學	東洋圖書會社
兒童の電氣學	同
兒童の物理學	同

第十七章 其の他の學科學習設備

兒童の地文學

兒童の天文學

兒童のラヂオ

科學畫報

子どもの聞きたがる話

子どもの科學

天上界の不思議

兒童の物理實驗

發見發明の話

自然研究 (カヒコ)

汽車の話

少年理科圖

面白い科學百話

自然界の疑問と不思議

同 同 同

原田三夫著

山本 正著

イデア書院

堀 七藏著

松平道夫著

栗山芳雄著

鐵と石油

空中動物園

カナリヤ

電磁石

電 鈴

電信機模型

電車模型

電動機

電 球 (各色の)

磁 針

棒磁石

軟鐵棒

蹄形磁石

解剖器

川崎喜一著

小松崎三枝著

石井時彦著

乾電池

ブリズム

模型蒸氣機關車

寒暖計

溫度計

シロホン

オルガン

顯微鏡

音 叉

最高最低寒暖計

蓄電池

第十七章 其の他の學科學習設備

各種レンズ

平面鏡

虫眼鏡

ピンセット

2 唱歌學習の設備

大オルガン

シロホン

蓄音器及びそのレコード

×ハーモニカ

作曲用小塗板

小學唱歌、その他童謡等の歌曲集

オルガン階梯

幾尾式唱歌カード 數部

×幾尾式唱歌帳

3 圖書手工の學習設備

圖書手工室があるから教室としては次のやうなものを設備してゐる。

水彩繪具

木炭

×バステル

×クレパス

×クレイヨン

×彫刻刀各種

かんな

のこぎり

金鋸

釘

板

角材

粘土板

ボール紙

各色圖書用紙

鋏

色テープ

畫板

のみ

きり

繪筆

4 體育學習の設備

赤白手旗

バトン

巻尺

ストップウオッチ

バレー用ボール

フットボール

インヂアンベースボール用具

レコード記入表

第十八章 地理、歴史學習の基礎 としての尋四の整理

尋五になると新たに地理國史の教科が加はる。これらの基本觀念を整理し、そしてこれらの學習の準備を尋四の末にしておかう。尋五になつて、大事な新學年の初頭をそれら學習の準備にぐづぐづしてゐるといふことは甚だ惜しいことであるからである。

一 地理學習の準備として整理すべき材料

地理學習の準備となるべき材料は、國語讀本中に甚だ多い。今、國語讀本中の材料を卷一より卷の八まで通覽すると、卷の四までは大體郷土的材料があり、卷の五からは郷土を出でて日本に踏み出し、卷の七からは更に踏み出して世界といふ

ことに展開されてゐる。今、それ等の材料と地理的に取扱ふべき整理事項をあけると

讀本中の地理的材料

ハコニハ (卷一)

高いところが山、低い所が川、といふことから山川の觀念、これは尋四までに兒童たちが十分知りつくし、理會しつくすところのものであるからあらためて整理する必要もない。たゞこれを地圖化することは指導しておきたい。

四方 (卷三)

日に向つて前が東、後が西、右が南、左が北。

これも尋四までには兒童の十分體得するところ、又體得させておかなければならぬもの、尋四末に於いては、これを磁石によりて知る法を實地に理會せしめ、更に、地圖上の方向までも進んでおくべきである。

私ノ村 (卷三)

岡學校、役場、川、新道、田などによつて地圖の讀方、それから、學校、役場が同じ場所

にある所以、新道の通ずる理由などは簡單でもよい指導されてゐなければならぬもの。

ふじの山 (卷三)

日本の名山、それから高山の觀念、日本地圖上の位置等
私どもの町 (卷四)

地圖の讀方はむろん、町役場、警察署、郵便局、鐵道、停車場のあるわけ。商店、工場があり、電燈、電話の設備のあるわけ、更にこの町の繁華なわけ等。

汽車のたび (卷四)

鐵橋、河、トンネル、海、船、軍艦、兵營等によつて、人事と自然との關係、軍艦、兵營等によつて國家と軍備等にもふれておく。

遠足 (卷五)

地圖の讀方、それから地圖が縮尺されて描かれてゐること、地圖面の實際の距離等。

大日本 (卷五)

萬世一系の皇室と、忠君愛國の國民の美風とによつて我が國がらを知らせると共に外國の國がらに秀で、ゐること、それから國民が約七千萬あること、地圖上に於ける大日本帝國の理會。

雨 (卷五)

谷、小川、大川、海、それから本流と支流との關係、地圖の讀方。郷土地圖の模型及び地圖の製作 (これはその學習當時になさるべきもの)。

日本三景 (卷五)

松島、天の橋立、宮島等の地圖上の位置。

東京停車場 (卷五)

大東京と大停車場の關係及び停車場の活氣ある原因。官城及び東京が政治の中心地であること、大都會の觀念及びその因由。

日本の高山 (卷六)

高山と氣候。富士山、新高山、白根山、槍岳、赤石山、ヒマラヤ山の高さ及びこれら諸山と、春日山、三笠山、東山等の地圖上の位置。

海 (卷六)

しげ、なぎを中心として海の觀念

航海の話 (卷六)

航海といふこと、及び燈臺大海の觀念

伊勢參宮 (卷六)

伊勢神宮の祭神、鐵道と神社、二見ガ浦と貝細工店、日本地圖上に於ける神宮の位置。

加茂川 (卷六)

政治の都としての東京と美術の都としての京都及、現帝都としての東京と、舊帝都としての京都との比較、加茂川と友禰染によつて自然と人事との關係、京都の成因、大都會と交通京都地圖の読み方、及び日本地圖上に於ける京都の位置。

世界 (卷七)

世界地圖の読み方、地球儀の見方、世界地圖上及び地球儀上の日本の位置、地球上の國々と五大強國及びその位置。

横濱 (卷七)

日本地圖上及び世界地圖上の横濱の位置。港及び貿易港の觀念。輸出入品の生産地、その取引先、横濱と東京との關係。横濱の今日ある所以。

大阪 (卷七)

仁徳天皇及び大阪城と大阪。市街の交通運輸。商工業の觀念と商工業と大阪。位置の上から見たる大阪。日本地圖上及び世界地圖上の大阪及び神戸の位置。大阪と神戸との關係。市街地圖の見方。

大連だより (卷七)

大連、旅順と日本歴史。大連の世界及日本地圖上の位置。波止場の觀念。大連市の水陸交通及び背後の生産地。大連の氣候。大連の貿易。

揚子江 (卷八)

支那の廣漠、支那の大河、これらの地圖上の位置。揚子江の流域の産物。揚子江岸と我が國との貿易。

アメリカだより (卷八)

ハワイ、サンフランシスコ、カリフォルニアと日本人、シカゴ、ニューヨークの有様及び、それらの地圖上の位置、米國の國勢一斑。
名古屋市（卷八）

名古屋市の成因、商工業と都會、名古屋市の日本地圖上の位置。

以上は國語讀本中の材料であるが、算術教科書の中にも、これに類するものがある。たとへば

鐵道ノ長サハ東京カラ名古屋マデ三七七五四キロメートル、名古屋カラ京都マデ一四七七四キロメートル、京都カラ大阪マデ四三・一三キロメートル、大阪カラ神戸マデ三二六七キロメートルアル。東京カラ神戸マデ何程アルカ、（尋四）午後七時二十分ニ東京ヲ出ル汽車ハ翌日午前七時十八分ニ大阪ニ着ク、ソノ間ハ何時何分カ、（尋四）

等である。これらは鐵道距離の觀念、時間の觀念の養成にもなり、旅行案内、及び地圖の見方へも發展させられる。

二 國史學習の準備として整理すべき材料

國史學習の準備として整理すべき材料は地理と同じく讀本材料中に甚だ多い。又修身材料中にもこれを求めることが出来る。今讀本材料からこれをひろつて見ると

ウシワカマル 大江山（卷二）

をののとうふう（卷三）

白ウサギ 扇のまと 曾我兄弟（卷四）

大蛇退治 金鵄勳章 熊襲征伐 養老 八幡太郎 大日本（卷五）

くりから谷 弓流し 萬じゆの姫 神風 千早城 加茂川 伊勢參宮（卷六）

六）

鎌倉攻 川中島 木下藤吉郎 加藤清正 大阪 大連だより（卷七）

武將の幼時 大岡さばき 塙保己一 廣瀬中佐 乃木大將の幼年時代 名

古屋市 マリーの氣てん（巻八）

修身教科書中には個人的に出されてゐるものが甚だ多い。たとへば水戸光圀や松平定信、上杉鷹山、貝原益軒、渡邊登等の如きがそれである。

三 尋四に於ける整理の眼目

いふまでもなく、地理的材料を地理學習の準備として、歴史材料は歴史學習の準備としてなされるものである。そのいかなる點までなすべきかは兒童の狀態によつて決せられることであるが、少くとも地理的材料に於ては、

- 1 都會、山川、國土等は地圖上の位置を明かにし、これによりて、日本地圖、世界地圖を兒童の腦底に入れること。
- 2 地圖の讀み方を會得せしむること、模型の必要なるものは模型を見せ又は製作せしめ、地圖も簡單なものは描き得るまでになすこと、尋五地理附圖の第一頁の如きはこの間に取扱つておくがよい。

- 3 比較の材料を得しむこと。
 - 4 因果關係の明瞭なるものはこれを指導して地理的推究力を啓培しておくこと。
- 等であり、歴史的材料に於いては

- 1 以上の材料を年代圖によつて（あるひは作製させる）年代順にならべしめ、大體の時代區分をはつきりさせること。
 - 2 地と人物、事件とを密着せしむるため、地圖上の位置をはつきりさせること。
 - 3 具體的な人物の行爲、事件の有様、推移を十分頭に入れしめて國史學習の際、それが直ちにその時代の背景となるやうにしておくこと。
 - 4 事件と事件、人物と人物、又事件と人物間に脈絡の通ずるものはこれを結びつけて置くこと。
- 等である。


地理教材にしても、歴史教材にしても、そのつど、十分に取扱はなければならぬこ

とは言ふまでもないが、しかし、讀方としての獨自性、修身としての立場を冒瀆せざる範圍、いな、それらのために、取扱はれたものであるから、尋四末期の整理學習に於いては、その立場をかへて、これを地理的に、これを國史的に取扱ふべきものであることを附言しておく。

遊びより
仕事への
尋四の學級經營 終

著作 所有	昭和三年五月十日印 昭和三年五月十五日發行	刷
【定價金貳圓五拾錢】		

遊びよりの仕事への
尋四の學級經營
付 奥



<p>著者</p> <p>山路 兵 一</p>	<p>發行者</p> <p>永田 與三郎 <small>大阪市南區內安堂寺町一丁目廿八番地</small></p>	<p>印刷者</p> <p>松本 米藏 <small>大阪市東區區鶴天寺町五七七八</small></p>
<p>發行所</p> <p>東洋圖書株式會社 <small>東京市神田區美神保町二番地 大阪市南區內安堂寺町一丁目廿八番地 奈良市南區西田町十三番地</small></p> <p>〔直接註文一手取扱〕大阪市南區內安堂寺町一・振替大阪三九五五六番</p>		

大貴 (東京) 南海書院・文修堂 (名古屋) 川瀬・星野 (久留米) 菊坪
 大所 (大阪) 寶文館・盛文館 (京都) 京都省書館 (熊本) 賀本長崎

社會式株刷印谷統・刷刷印
 所本製本産・所本製

東洋圖書教育書

版八	版十	版五	版十	刊新最
<p>表 現 と 鑑 賞</p> <p>教員女高師 岩城準太郎先生著 定価 二〇六〇 送料 二六〇</p>	<p>九州帝大 松濤泰巖先生著 定価 二〇六〇 送料 二六〇</p> <p>學習心理と學習様式</p>	<p>教員女高師 横山榮次先生著 定価 二〇六〇 送料 二六〇</p> <p>教授新論</p>	<p>兼附屬小學主事 木下竹次先生著 定価 二〇六〇 送料 二六〇</p> <p>學習諸問題の解決</p>	<p>東洋大學 關 寛之先生著 定価 二〇六〇 送料 二六〇</p> <p>兒童學原論</p>
<p>□ □ つ文現職創 て章代し作 は論てと批 上あの學說評 なる權た、表 き。威文現 良□るの鑑 考現先新賞 書代生作と であ學永觀の る。研練ある者 。究らる。一に 者れたた新</p>	<p>□ □ 新兒教學 指童明習 導童師主 心さかは代 法理れは心 ををに先實 も上たの義 よ邦より根 示り文兒抵 され學唯童 て習一中を む式長へ學 るを書の習 。分であ思 。説し。の理 、學基詳 習の調し、</p>	<p>□ □ 指を本は我 針明書現が とかに先代國 加をに生際教 へ(2)が教育 ら之學育の れに習の重 た劃法羅鎮 る切新針た 名教授で先 著る法ある 。と(3)き。著 實(1)書、論 際根説</p>	<p>□ □ よ從上始本 りつの者書 説て諸木は 明實問下天 せ際題先下 る學に生の 點習つが教 に上き學育 於の一習界 て難々法を 學問詳の風 習題解根慶 原にさ本した 論つれ並たる 以きたに其學 上具る共習法 の體其の習實創 名例書實法際</p>	<p>□ も究方願本 求さ面問書 めれ及では 難た其ある いるのる國 現一發關兒 代大達先童 教良の生心 育書實が理 界で際兒學 の我と置の 一國機の泰 種に能身斗 成はと體で 書勿を及現 。あ歐詳精に る米にの部 。に研兩書</p>
<p>兌發 社會資合式株書圖洋東 阪大・京東 番六五五九三阪穴替攝・目丁一町寺堂安内・區南市阪大(扱取手一文註接直)</p>				

教育學術參考書

東洋圖書教育書

<p>九版 奈良女高師前教育花田甚五郎先生著 定價二・〇〇 送料〇・六〇</p> <p>活用の學 校經營</p>	<p>最新刊 最新刊 三版 最新刊</p>	<p>廣島高師教授文學博士久保良英先生序 奈良女高師教授木庄精次先生序 守田保先生著</p> <p>實際的個性調査法 送料二・八〇 送料〇・六〇</p>	<p>文部省社會教育課編</p> <p>映畫教育 定價二・〇〇 送料〇・六〇</p>	<p>大阪家なき幼稚園長 大毎 橋詰せみ郎先生著</p> <p>家なき幼稚園の主張と實際 送料二・〇〇 送料〇・六〇</p>	<p>關西學院 砂川寛榮先生著</p> <p>進歩的教育の諸問題 送料二・〇〇 送料〇・六〇</p>
<p>昭和新時代の要求に適應せる學級經營の實際を詳説するの經營上の最良の教育方法の</p> <p>昭和新時代の要求に適應せる學級經營の實際を詳説するの經營上の最良の教育方法の</p>		<p>兒童の生活の活動寫眞は止めざるべきである</p> <p>兒童の生活の活動寫眞は止めざるべきである</p>	<p>著者が試みる教育の特色は、十年間の實際的調査の結果である</p> <p>著者が試みる教育の特色は、十年間の實際的調査の結果である</p>	<p>本書は、教育の社會的方面の強弱を詳説する</p> <p>本書は、教育の社會的方面の強弱を詳説する</p>	<p>本書は、橋詰先生の「家なき幼稚園」の主張と實際を詳説する</p> <p>本書は、橋詰先生の「家なき幼稚園」の主張と實際を詳説する</p>

東京・大阪 東洋圖書株式會社發行
東京・大阪 東洋圖書株式會社發行

教育書は東洋圖書

<p>最新刊 最新刊 五版 三版 三版 五版</p>	<p>奈良女高師 森川正雄先生著</p> <p>幼稚園の理論及實際 送料二・〇〇 送料〇・六〇</p>	<p>奈良女高師 森川正雄先生著</p> <p>保母教育學 送料二・〇〇 送料〇・六〇</p>	<p>立正大學 千葉命吉先生著</p> <p>問題的教育心理學的考察 送料二・八〇 送料〇・六〇</p>	<p>野村教育 大伴 茂先生著</p> <p>教育科學の諸問題 送料二・八〇 送料〇・六〇</p>	<p>東京大 入澤宗壽先生著</p> <p>教育者と教育精神 送料二・〇〇 送料〇・六〇</p>
<p>心を得るべき教育の現場</p> <p>心を得るべき教育の現場</p>	<p>本書は、幼稚園の理論及實際を詳説する</p> <p>本書は、幼稚園の理論及實際を詳説する</p>	<p>本書は、保母教育學の理論及實際を詳説する</p> <p>本書は、保母教育學の理論及實際を詳説する</p>	<p>本書は、問題的教育心理學的考察を詳説する</p> <p>本書は、問題的教育心理學的考察を詳説する</p>	<p>本書は、教育科學の諸問題を詳説する</p> <p>本書は、教育科學の諸問題を詳説する</p>	<p>本書は、教育者と教育精神を詳説する</p> <p>本書は、教育者と教育精神を詳説する</p>

東京・大阪 東洋圖書株式會社發行
東京・大阪 東洋圖書株式會社發行

東洋圖書の教育書

版七	版十	刊新最	版五	刊新最	版五
岡崎師範附屬小學校著 生活深化の眞教育 送料 〇・六	奈良女高師前教育三好得惠先生著 自發教育案と其の實現 送料 〇・六	奈良女高師 山路兵一先生著 指導活尋六の學級經營 送料 〇・六	奈良女高師 山路兵一先生著 指導活尋五の學級經營 送料 〇・六	奈良女高師 山路兵一先生著 遊びより 尋三の學級經營 送料 〇・六	奈良女高師 山路兵一先生著 遊びより 尋四の學級經營 送料 〇・六

□ 著者は専ら體驗に基き各學年に亘つてその學級經營を完成された。

□ 尋三四は「遊びより仕事へ」入る學年である本書は兎角等閑にし勝ちな此の中學年の學級經營を模範的に解決した良書である。

□ 健全なる社會の基礎をなすものは中産階級である。依て具眼の政治家は健全なる中産階級の振興に全力を注ぐと。尋三四は又實に學校内に於ける中産階級である。

□ 尋五六は學年系統線上の高學年部である。最早象牙の塔の中の子供ではない。正に實社會の實生活を唯一の生活場學習題材として生長しようとする子供たちである。

□ 又其の一舉手一投足は凡てそれ以下の子供たちにも何ものかの響をもち全校の學風を左右する彼等である。此の學年をよりよく指導することはいはゆる義務教育を完成する所以で本書は其の實際記録集である。

□ 學習法を地方の一學校へ理想的に實施して我國未開の好成績を収めた實際實績である現制度の下に實施し得る確健着實な新教育法である。今上陛下の天覽を賜ふ。

□ 天下の優良附屬たる岡崎師範附屬小學校が新と舊とを以て築き上げられたのが本書である。熱と涙とを以て築き上げられたのが本書である。言々句々苦しき體驗と拿々體驗との結晶。

東大・京東 阪大 東洋圖書株式會社發兌
（直轄文一取擧）大阪市南區安堂寺一丁目・舊三九五六番

教育書は東洋圖書

版九	版二十	刊新最	版六十四	版三十	版三
奈良女高師 山路兵一先生著 遊びの尋一の學級經營 送料 〇・六	奈良女高師 山路兵一先生著 遊びの尋一の學級經營 送料 〇・六	奈良女高師 清水甚吾先生著 續學習法と各學年の學級經營 送料 〇・六	奈良女高師 清水甚吾先生著 學習法と各學年の學級經營 送料 〇・六	東京女高師 北澤種一先生著 學級經營原論 送料 〇・六	高山師範附屬小學校著 ホーム組織の學校經營 送料 〇・六

□ 著者は専ら體驗に基き各學年に亘つてその學級經營を完成された。

□ 尋三四は「遊びより仕事へ」入る學年である本書は兎角等閑にし勝ちな此の中學年の學級經營を模範的に解決した良書である。

□ 健全なる社會の基礎をなすものは中産階級である。依て具眼の政治家は健全なる中産階級の振興に全力を注ぐと。尋三四は又實に學校内に於ける中産階級である。

□ 尋五六は學年系統線上の高學年部である。最早象牙の塔の中の子供ではない。正に實社會の實生活を唯一の生活場學習題材として生長しようとする子供たちである。

□ 又其の一舉手一投足は凡てそれ以下の子供たちにも何ものかの響をもち全校の學風を左右する彼等である。此の學年をよりよく指導することはいはゆる義務教育を完成する所以で本書は其の實際記録集である。

□ 學習法を地方の一學校へ理想的に實施して我國未開の好成績を収めた實際實績である現制度の下に實施し得る確健着實な新教育法である。今上陛下の天覽を賜ふ。

□ 天下の優良附屬たる岡崎師範附屬小學校が新と舊とを以て築き上げられたのが本書である。熱と涙とを以て築き上げられたのが本書である。言々句々苦しき體驗と拿々體驗との結晶。

東大・京東 阪大 東洋圖書株式會社發兌
（直轄文一取擧）大阪市南區安堂寺一丁目・舊三九五六番

東洋圖書の教育書

<p>八版 奈良女高師 山路兵一先生著 讀方學習活動 その實際と説明 送料二〇六</p>	<p>八版 奈良女高師 河野伊三郎先生著 國語學習上の諸問題 と其の解答 送料二〇六</p>	<p>八版 奈良女高師 秋田喜三郎先生著 國語讀本の縦斷的研究 送料二〇六</p>	<p>最新刊 廣島高師 堀之内恒夫先生著 新高等修身教育書 高一用 送料各〇六 高二用 送料各〇六</p>	<p>二十版 奈良女高師 野中吉光先生著 修身學習の根本と其の實際 送料二〇六</p>
---	---	--	--	--

各科教育法參考書

東京・大阪 東洋圖書株式會社發行
 東京支店：文京區安堂寺一丁目
 大阪支店：三番五九六番

教育書は東洋圖書

<p>最新刊 文部會社會教育課長 小尾範治先生推薦序文 岡崎市梅園青年訓練所主事 石田利作先生著 青年訓練所の經營 送料二〇六</p>	<p>最新刊 文部會實業補習教育主事 岡篤郎先生著 産業教化補習學校經營の實際 地方改善 送料二〇六</p>	<p>最新刊 文部會實業補習教育主事 岡篤郎先生著 産業教化補習學校經營の實際 地方改善 送料二〇六</p>	<p>最新刊 文部會社會教育課長 小尾範治先生著 奈良縣高田高等女學校校長 井上嘉三郎先生著 社會一日女學校 送料二〇六</p>	<p>五版 東京兒童の村 志垣 寬先生著 新學校の實際と其の根據 送料二〇六</p>	<p>四版 奈良女高師 鶴居滋一先生著 合科學習原論 送料二〇六</p>
--	---	---	---	---	---

東京・大阪 東洋圖書株式會社發行
 東京支店：文京區安堂寺一丁目
 大阪支店：三番五九六番

東洋圖書の教育書

刊新最	版五	版六	版十	版十	版五
<p>農業教育</p> <p>九州大学教育 小出満二先生著 送料 二〇〇六</p>	<p>手工教材</p> <p>東京女高師 山形 寛 先生著 送料 二〇〇三</p>	<p>粘土彫塑と木彫</p> <p>奈良女高師 横井曹一先生著 送料 一〇〇六</p>	<p>手工學習原論と新設備</p> <p>奈良女高師 横井曹一先生著 送料 二〇〇六</p>	<p>メートル裁縫</p> <p>大阪府立 結城親學先生著 送料 二〇〇三</p>	<p>可愛らき女子供服の縫方</p> <p>大阪府立 結城親學先生著 送料 二〇〇三</p>
<p>本書は農業教育の基礎を述べ、農業者の養成に必要となる知識と技術を解説している。農業者の地位の向上と農村の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は手工藝の基礎を述べ、手工藝の発展に必要となる知識と技術を解説している。手工藝の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は彫塑の基礎を述べ、彫塑の発展に必要となる知識と技術を解説している。彫塑の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は手工藝の基礎を述べ、手工藝の発展に必要となる知識と技術を解説している。手工藝の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は裁縫の基礎を述べ、裁縫の発展に必要となる知識と技術を解説している。裁縫の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は裁縫の基礎を述べ、裁縫の発展に必要となる知識と技術を解説している。裁縫の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>

東京・大阪・東洋圖書株式會社發行
 東京支店：東京都千代田区安永一丁目一丁目
 大阪支店：大阪府大阪市南區大馬路一丁目
 電話：三五九六

教育書は東洋圖書

刊新最	版四	版三	版七	版五	版七
<p>裁縫學習の根本と其の實際</p> <p>東京女高師 松尾まきを先生著 送料 二〇〇六</p>	<p>裁縫精義</p> <p>奈良女高師裁縫研究會著 送料 二〇〇六</p>	<p>體育としての雑刀</p> <p>奈良女高師 新井つた女史著 送料 二〇〇六</p>	<p>教育ダンス</p> <p>奈良女高師 御征政重先生共著 送料 二〇〇六</p>	<p>小學校體操教程</p> <p>東京市 藤本光清先生編 送料 二〇〇六</p>	<p>小學校遊戯指導書</p> <p>東京女高師 寺谷朝藏先生著 送料 二〇〇六</p>
<p>本書は裁縫の基礎を述べ、裁縫の発展に必要となる知識と技術を解説している。裁縫の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は裁縫の基礎を述べ、裁縫の発展に必要となる知識と技術を解説している。裁縫の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は體育の基礎を述べ、體育の発展に必要となる知識と技術を解説している。體育の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は教育の基礎を述べ、教育の発展に必要となる知識と技術を解説している。教育の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は教育の基礎を述べ、教育の発展に必要となる知識と技術を解説している。教育の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>	<p>本書は教育の基礎を述べ、教育の発展に必要となる知識と技術を解説している。教育の地位の向上と文化の発展に資する内容である。</p>

東京・大阪・東洋圖書株式會社發行
 東京支店：東京都千代田区安永一丁目一丁目
 大阪支店：大阪府大阪市南區大馬路一丁目
 電話：三五九六

東洋圖書教育書

<p>東京高師 佐藤良一 山本政治 四先生共著 模範代數講義 定價上二〇〇 下一八〇 補習一〇〇 送料〇・六</p>	<p>愛知一中 中山久吉先生著 最新新化學 定價一〇〇 送料〇・三</p>	<p>中村邦治先生著 女子物理學講義 定價二〇〇 送料〇・六</p>	<p>東洋大學 關寛之先生著 高等心理學 定價二〇〇 送料〇・六</p>	<p>第二高等師範 佐藤充先生著 高等物理學 定價各四〇〇 送料各〇・三〇</p>	<p style="text-align: center;">學生參考書・其他</p>
<p>代數講義の模範本として、その内容が正確で、例題が豊富で、練習問題も適切である。初学者にとって非常に役立つ一冊である。</p>	<p>最新新化學は、最新の化学知識を網羅し、わかりやすい解説と豊富な実験例題を収録している。学生にとって非常に参考になる一冊である。</p>	<p>女子物理學講義は、女子学生に特化した物理学の入門書として、基礎から応用まで丁寧に解説されている。図解も多く、理解しやすい。</p>	<p>高等心理學は、心理学の基礎知識を体系的に解説している。豊富な事例と実験結果を引用し、理論をわかりやすく説明している。</p>	<p>高等物理學は、物理学の基礎から応用までを網羅している。豊富な図解と実験例題を収録し、学生にとって非常に役立つ一冊である。</p>	
<p>東京・大阪・東洋圖書株式會社發行</p>					<p>（取手一社註接直）</p>

教育書は東洋圖書

<p>學習指導研究會編 學習指導一教育資料大集 定價六〇〇 送料〇・三〇</p>	<p>奈高師 堀本山崎清水 井井先生共著 各科批評真髓 定價二〇〇 送料〇・六</p>	<p>奈高師 清水訓導其他執筆 學習指導案實例集 定價三〇〇 送料〇・三</p>	<p>奈高師 石澤吉磨先生著 家事學習上の諸問題 定價三〇〇 送料〇・六</p>	<p>文部省實業 松本真一先生 共著 商業指導書 定價各三〇〇 送料各〇・六</p>	<p>文部省實業 千葉敬止先生著 農業指導書 定價各二〇〇 送料各〇・六</p>
<p>本書は、學習指導の理論と実践を網羅した大規模な資料集である。各分野の最新動向と具体的な指導案を収録し、教師にとって非常に役立つ一冊である。</p>	<p>本書は、各科の教學法と批評を詳しく解説している。最新の教學法と、その長短を客観的に分析し、実践に役立つ指導法を提示している。</p>	<p>本書は、各科の教學案の具体的な実例を豊富に収録している。教師が授業をスムーズに進め、学生の理解を深めるための実践的な指導案が満載である。</p>	<p>本書は、家事学習の重要性と、その実践方法を詳しく解説している。家庭での学習環境を整え、子どもの生活スキルを育成するための指導法が満載である。</p>	<p>本書は、商業教育の重要性と、その実践方法を詳しく解説している。最新の商業動向と、実践的な指導法を提示し、学生の職業意識を育成するための一冊である。</p>	<p>本書は、農業教育の重要性と、その実践方法を詳しく解説している。最新の農業技術と、実践的な指導法を提示し、学生の職業意識を育成するための一冊である。</p>
<p>東京・大阪・東洋圖書株式會社發行</p>					<p>（取手一社註接直）</p>

東洋圖書教育書

<p>版三 前奈良女高師 永田與三郎編 大初等教育史上に残る人々とその苦心 送料 二〇六〇</p>	<p>版四 訓奈良女高師 池田こぎく先生著 私の教育記録 送料 二〇六〇</p>	<p>版三 京大 小西重直先生序、青木女子女史抄譯 母より先生へ 送料 二〇六〇</p>	<p>版三 前奈良女高師 上島直之先生著 最新 歐米教育の實際 送料 二〇六〇</p>	<p>版三 前奈良女高師 錦織竹香先生著 古今 服装の研究 送料 二〇六〇</p>	<p>版六 實成 養力 學生新學習法 送料 二〇六〇</p>
<p>□ 明治の模倣を脱却し、教育の殿堂を築くべきは、多岐にわたる苦闘の果てに、本書がその第一歩を踏み出したことを、著者は力強く告げている。</p>	<p>□ 教育の根本態度を初め、その具体的な方法を、著者は豊富な経験から、簡明扼要に示している。</p>	<p>□ 小西先生の著書は、母と子の関係、先生と生徒の関係を、深く考察し、その実践的な方法を示している。</p>	<p>□ 欧米教育の實際を、著者は豊富な知識と経験から、詳しく紹介している。</p>	<p>□ 服装の研究は、単なるファッションではなく、その文化的背景と、その実践的な方法を、著者は詳しく紹介している。</p>	<p>□ 本書は、現代の教育者にとって、最も重要な参考書である。</p>
<p>東京大坂東洋圖書株式會社發行</p>					

教育書は東洋圖書

<p>版二十 前奈良女高師 永田與三郎先生著 新聞記事を説明したる 經濟の話 送料 二〇六〇</p>	<p>版三 法政大學教授 小林好日先生著 資料 現代詩鑑賞 送料 二〇六〇</p>	<p>刊新最 成城學校訓導 松本浩記先生編 兒童 副修身書 送料 各二〇六〇</p>	<p>版六 白井繁太郎先生著 東洋史物語 送料 各二〇六〇</p>	<p>版五 宮道馨先生著 理化學史物語 送料 二〇六〇</p>	<p>版十 清水英一先生著 數學史物語 送料 二〇六〇</p>
<p>□ 新聞記事の経済的話は、著者は豊富な知識と経験から、詳しく紹介している。</p>	<p>□ 現代詩鑑賞は、著者は豊富な知識と経験から、詳しく紹介している。</p>	<p>□ 兒童副修身書は、著者は豊富な知識と経験から、詳しく紹介している。</p>	<p>□ 東洋史物語は、著者は豊富な知識と経験から、詳しく紹介している。</p>	<p>□ 理化學史物語は、著者は豊富な知識と経験から、詳しく紹介している。</p>	<p>□ 數學史物語は、著者は豊富な知識と経験から、詳しく紹介している。</p>
<p>東京大坂東洋圖書株式會社發行</p>					

皇族殿下の賜台覽

文部省御認一定・茗溪會御推獎
 兒童讀物の一才ソリチ

學習資料 百科全書

日本一を期したる學習資料兒童參考書一內容充實して平易、體裁優美にして堅牢

奈良女高師前教授 及川久太郎先生著 兒童の物理學	奈良女高師前教授 及川久太郎先生著 兒童の物理學	奈良女高師前教授 及川久太郎先生著 兒童の化學	奈良女高師前教授 及川久太郎先生著 兒童の電氣學	奈良女高師前教授 仲本三三先生著 兒童の算學 (幾何篇)	奈良女高師前教授 仲本三三先生著 兒童の算學 (代數篇)	奈良女高師教授 木枝増一先生著 兒童の國文學
-----------------------------	-----------------------------	----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------

定價各册 壹圓拾錢 送料八錢

東京大阪東洋圖書株式會社發兌

東京大阪東洋圖書株式會社發兌

一名兒童百科全書と稱し、逐次各科に亘りて刊行、一冊にても良書揃へば尙良書

教育書は東洋圖書

<p>版五</p> <p>奈良女高師 須山法香齋先生著 臨時定價 〇・四九 盛投入れ 花の活け方</p>	<p>奈良女高師 清水與三郎先生著 臨時定價 〇・二六 子女 新化學實驗書</p>	<p>文部省檢定</p> <p>奈良女高師 清水與三郎先生 共著 臨時定價 一・三〇 子女 新化學教科書</p>	<p>文部省檢定</p> <p>奈良女高師 高村與三郎先生 共著 臨時定價 一・三〇 子女 新物理學教科書</p>	<p>版四</p> <p>奈良女高師 秋草ちか先生 共著 定價 〇・〇〇 寫真 作法實習記錄</p>
---	--	---	--	---

中等教科書

我が國古來の學問は、難しき作法中、特に古典的
 代表たる本邦の學問に、ついでに、その詳細なる
 により、一目瞭然たるもの、その次、その
 本邦の學問の、その理法を、その
 作法、其の、その理法を、その
 作法、其の、その理法を、その

□ 奈良女子高等師範學校の代表教科書
 □ 最新女子教育の發達に恰當の良書、
 □ 自學自習實力鍛練に便利に編纂さる
 □ 五年制女學校には最も好都合の教科書
 □ 四年制の女學校には自學資料を與ふ。教材
 の省略表により自學自習心を養ふ便あり。

□ 前掲女子新化學教科書の姉妹篇である。
 □ 化學實驗の進歩は女子教育の新傾向に
 □ 教師が實驗の進歩は女子教育の新傾向に
 □ 文部省檢定不要、参考用なら、府縣屆書不要
 □ 奈良女高師の代表教科書、同校教師の手に
 □ 一流に同校附屬各流の、同校教師の手に
 □ 女學校生活に活用せしめ、その外、一般參考書に
 □ 女學校生活に活用せしめ、その外、一般參考書に

東京大阪東洋圖書株式會社發兌

東京大阪東洋圖書株式會社發兌

皇族殿下の賜台覽

文部省御認一定・茗溪會御推獎
兒童讀物の一オリチ

學習資料 百科全書

最良は最後の勝利—歐本讀出の今日本書のみ傑然として光彩を放つ

最良は最後の勝利—本宮の實力養成に肝要にして而かも無二の参考書

奈良女高師教授 神戶伊三郎先生著 兒童の植物學	奈良女高師教授 神戶伊三郎先生著 兒童の植物學	奈良女高師教授 神戶伊三郎先生著 兒童の動物學	奈良女高師教授 神戶伊三郎先生著 兒童の昆蟲學	奈良女高師教授 桑野久任先生著 兒童の生理學 (藥學篇)	奈良女高師教授 桑野久任先生著 兒童の生理學 (活動篇)	奈良女高師教授 西田與四郎先生著 兒童の地文學	奈良女高師教授 清水半吾先生著 兒童の天文學
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------	---------------------------

錢八料送・錢拾八圓壹 册各價定

東京大阪 東洋圖書株式會社發兌

(直按註一文取扱) 大阪南區寺町一丁目・舊穴三九五六番

